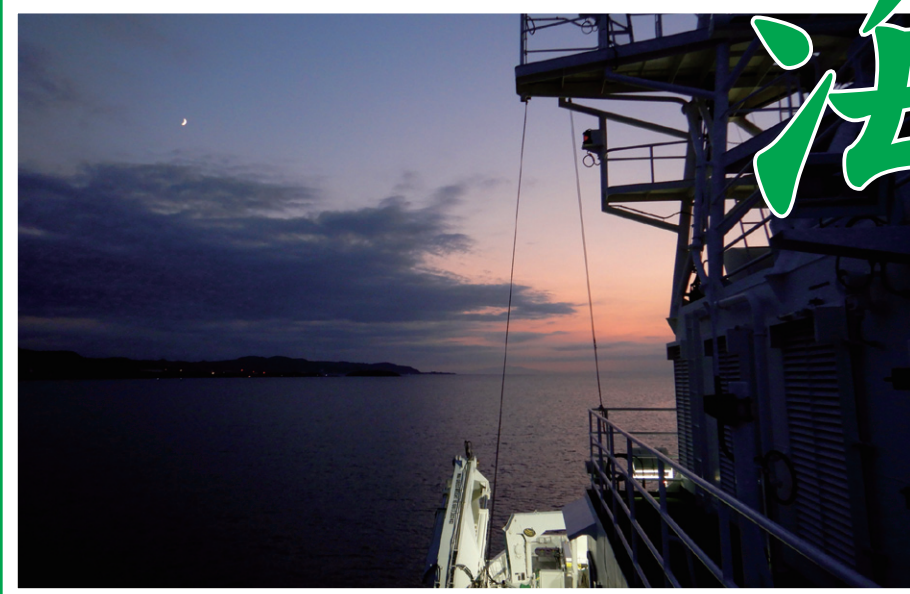


vol.46 july 2026



拓海

「海」を切り拓く匠の業と心

CONTENTS

2026年 出会い 入学特集	
入学・進学のみなさんへ	3
在学生から新入生のみなさんへ	7
先輩留学生から新入生のみなさんへ	12
大学での学び方	13
卒業生より 業界で活躍しているOB・OGの方々	20
新任教員の紹介	21
学生会報告書	25
大学祭特集 海王祭の紹介	26
ニュース&トピックス	27
就職情報	31
学生相談室からのお知らせ	35
お知らせ	38

◆2026年 出会い

■入学特集

◎入学・進学のみなさんへ

「模倣学習」	井関 俊夫……	3
自ら学びを切り拓く者へ	小暮 修三……	4
新たな学びの船出にあたって	久保 信明……	5
自立への歩みを	宮本 佳則……	5
大学院入学の皆さんへ	北出裕二郎……	6

◎在学生から新入生のみなさんへ

『濃密な学生生活を』	秋山 陽介……	7
新入生の皆様へ	堀 有咲……	8
在学生から新入生へ	島田達之心……	8
学びと部活動が教えてくれたこと	中村 颯真……	9
海洋大生よ、大志を抱け。	有江 和真……	9
新たなチャレンジ	安江 誠……	10
「迷ったときの選び方」	伊藤 万泰……	10
「井の中の蛙、大海を知る」	田中 誠一……	11
おいしい大学	渡邊 結斗……	11

◎先輩留学生から新入生のみなさんへ

「From senior international students to new students」	Fredeluces Ellarizza……	12
--	------------------------	----

■大学での学び方

◎学科の特色ある講義・実験の紹介

～シーマンシップのはじまり～	短艇実習	村井 康二……	13
船舶の機関士、運航管理者に必要な	専門知識を学ぶ「機関システム管理工学」	吉岡 哲也……	14

◎実習感想記

海洋資源キャリア実習体験記	谷口 小春……	15
実習感想記	小林 想……	16

◎資格取得に向けて

「私の選んだ道」	梶浦佐和子……	17
----------	---------	----

◎大学院で学べること

海洋システム工学専攻	阿部 悦也……	18
応用生命科学専攻	杉原ちひろ……	18

◎卒業論文・修士論文への取り組み方

卒業論文への取り組み方	町 勇汰……	19
修士論文への取り組み方	板倉 陽輝……	19

■業界で活躍しているOB・OGの方々

学びとご縁がつかないだ食品安全のキャリア	田中千可子……	20
----------------------	---------	----

■新任教員の紹介

海洋生物資源学部門	国松 翔太……	21
食品生産科学部門	中村 柚咲……	21

海事システム工学部門	片岡 敏彰……	22
海事システム工学部門	齊藤 学……	22
海事システム工学部門	平田 英隆……	22
海洋環境科学部門	板倉 光……	23
海洋環境科学部門	楊 子 江……	23
海洋資源エネルギー学部門	小林 厚志……	23
海洋資源エネルギー学部門	針金由美子……	24
次世代船舶運用技術開発センター	柳 東 勲……	24
海洋AI開発評価センター	平賀 和徳……	24

■自治委員会・学生会 報告書 …… 25

■大学祭特集

海王祭の紹介	渡邊 結斗……	26
--------	---------	----

■ニュース&トピックス

- ・品川キャンパス青鷹寮（国際混住寮）を開設しました…………… 27
- ・令和7年度3月期学位記・修了証書授与式を挙行しました…………… 28
- ・令和8年度入学式を挙行しました…………… 28
- ・令和7年度3月期学生表彰授与式、学業優秀学生奨学金授与式、学会等各賞表彰式を行いました…………… 29

■就職情報

- ・令和7年度卒業生の就職先…………… 31

■学生相談室からのお知らせ

- ・学生相談室について…………… 35
- ・令和8年度学生支援教員…………… 36
- ・本学の学生相談体制について…………… 37

■お知らせ

- ・海外派遣プログラムに参加してみませんか？…………… 38
- ・国立科学博物館および国立美術館の利用について…………… 39
- ・東京海洋大学 公式X…………… 39
- ・緊急時連絡システムについて…………… 40
- ・ネットワーク障害防止のための注意事項…………… 42
- ・東京海洋大学校友会のご案内…………… 44
- ・掲示板…………… 45

表紙写真（はざま）

実習航海で撮影した一枚。昼と夜、陸と海、そして学ぶ者と探究する者。その狭間に立つ自分を重ねた。

写真部

2026年 出会い

入学特集

入学・進学のみなさんへ

「模倣学習」

学長
井 関 俊 夫

また暑い夏がやって来ました。新入生、進学生の皆さんは本学での生活のリズムは掴めたでしょうか。規則正しい生活習慣を身につけ、健康的に酷暑を乗り切って欲しいと思います。そして、キャンパスでの講義だけではなく、課外活動、インターンシップや留学、あるいは海や船で行うスポーツやレクリエーションなど、計画的かつ有意義な学生生活を謳歌して欲しいと思います。

学生の皆さんも実感していると思いますが、最近の生成AIの進化には目を見張るものがあります。当初は「Large Language Model (LLM)」や「Vision Language Model (VLM)」の急速な進化に驚かされていましたが、最近では「Vision Language Action (VLA)」モデルを用いたロボットの登場により、生成AIが現実世界でフィジカル（身体的）に活動する時代になってきました。注目されるのは、「フィジカルAI」の学習方法です。LLMやVLMでは、ネット空間から収集された膨大な量のデジタルデータが機械学習に用いられていました。一方、最先端のVLAでは「模倣学習」が行われているようです。これは人間がロボットを遠隔操縦して学習させる方法で、ロボットが人間の真似をしているように見えることから「模倣学習」と呼ばれています。実際には、ロボットに取り付けられた多数のセンサーによって関節の動作や反力、映像や音声など、相互に関連する大量のデータを同時収集するもので、これを多くのロボットと多数のオペレータによって同じ作業を実施し、それらをまとめて学習するという方法がとられているようです。人の真似をすることに私たちはネガティブ



なイメージを持つことが多いのですが、最先端のAI学習では「模倣学習」は効率的で実践的な学習法のようなようです。

5月に東京国立近代美術館で「下村観山展」を見てきました。精緻な日本画の数々に紛れて、ラファエロの「小椅子の聖母」の模写が展示してありました。下村観山は横山大観とともに近代日本画の巨匠と呼ばれていますが、西洋画を模写することによって、日本画に無い技術を修得していたことには驚かされました。油彩の原物と見比べることはできなかったのですが、西洋画独特の

人物と構図をもちながら、水彩画の柔らかな色彩で精密に描きこまれた日本画は何とも不思議で魅力的な雰囲気を醸し出していました。芸術の世界では、模写や模造によって技量の向上を図ることは普通に行われているようで、海外の美術館で模写している人を実際に見かけたこともあります。おそらく下村観山の場合も、日本画の筆の持ち方や姿勢を維持したまま、西洋画を模写する際の筆先の動きや指先の感触の変化、腕の動かし方や体のバランスのとり方など、ありとあらゆる感覚を細かく意識しながら、視覚で捉えた原画との差異を一つの評価関数として、言語化できない類の技術を体得していったものと考えられます。このような過程はVLAの「模倣学習」と共通する部分が多いと言えるのではないのでしょうか。

「模倣学習」の有効性は皆さんの学修にも共通する点が多いかもしれません。ご存知のように、東京海洋大学は「実学」を重視する教育方針をとっています。学内や練習船、あるいは水圏フィールドで行われる実験・実習では、現物を見て触って、実感と共に知識を得ることが重要です。授業担当教員の指導に従って、言われたとおりに作業を進めるわけですから、VLAの「模倣学習」との共通点が多いとも言えます。「模倣学習」と類似な学習法は芸術の世界でも普通に行われていることを考えると、実験・実習に臨む際に大事なことも何となく見えてくるのではないのでしょうか。それは、言われたとおりに漫然と「模倣」するのではなく、自分の五感をフルに働かせて、可能な限り多くの感覚を意識し、体で記憶することではないかと思います。

新入生も在學生も、本学で学ぶ限られた時間の中で、一つの情報も漏らさないという覚悟をもって、集中して学修に臨むことが学生生活のコスパ・タイパを高めるための最善策だと思います。暑い夏に負けず、多くの機会を捉えて多くのことを学修し、皆さん自身の性能を高めることに集中してはいかがでしょうか。

自ら学びを切り拓く者へ

海洋生命科学部長

小暮修三



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

皆さんは大学生として、新たな一歩を踏み出しました。ただし、新入生オリエンテーションでもお話しした通り、「大学生」とは、単に年齢や所属が変わっただけの呼称ではありません。

これまで皆さんは、中学校・高校で「生徒」と呼ばれてきました。生徒とは、「教師の導きの下で知識や規範を身につける者」を意味します。すなわち、教えを受けて人格の基礎を形成していく受動的な存在です。

他方、「学生」とは、「学問をする者」を意味します。そして学生は、単に「学ぶ者」ではなく、「学問を探究する主体」という意味合いをもつ能動的な存在です。

大学という学びの場では、あらかじめ正解の定められた問題が常に用意されているわけではありません。むしろ、授業で提示される「問い」をいかに捉え、いかに深め、いかなる答えを導き出すかは、皆さん一人ひとりに委ねられています。

これから「学生」として皆さんに求められるのは、「自ら問いを立てる力」にほかなりません。そして、その問いに向き合う過程において、ときには教師の見解をも批判的に検討し、自らの答えを探究し続ける姿勢が求められます。さらに、自らの問いに対して責任を負うことも重要です。どの授業を選択し、何に時間を費やし、いかに思索を深めるか、そのすべては自らの責任に帰するものになります。

大学における学びは、単なる知識の集積ではありません。既存の知識を組み合わせ、新たな視座や価値を創り出す営みにほかなりません。その経験こそが、これからの社会で生きていくための大きな力となります。どうか、「教えられる者」としての「生徒」にとどまることなく、「自ら学びを切り拓く者」として、「学生」という名に恥じぬ存在となってください。

皆さんのこれからの四年間が、能動的な学びに満ちた実りある時間となることを願っております。私たち教員とともに、大学という学びの場を作っていきましょう。

新たな学びの船出にあたって



海洋工学部長
久保 信 明

入学・進学、誠におめでとうございます。皆さんが本学を選び、新たな学びの場に身を置かれたことを心より歓迎いたします。海洋工学部の分野は、海運・造船業界をはじめ、国際物流、資源・エネルギー、環境保全といった、現代社会の持続的発展に直結する重要な領域です。本学での学びは、その最前線と深く結びついており、皆さん一人ひとりの成長が社会に直接的な価値をもたらす可能性を持っています。去年、海洋工学部は創基150周年を迎えることができました。その際に、多くの企業の方々より、皆さんに対する強い期待を感じました。またご賛同頂いた企業より多くの寄附を頂いております。越中島キャンパス及び寮の整備やみなさんの学修環境の改善に今年度より利用させて頂けることをお伝えします。

大学院に進学された皆さんは、より高度で主体的な姿勢が求められます。大学院での研究は、自ら問いを立て、仮説を考え、検証し、成果として発信していく営みです。自分で選んだ分野だからこそ、能動的に動くことが極めて重要です。学会発表等の他流試合も大切にしながら、積極的に挑戦を重ねてください。

学部生の皆さんは、勉学を第一に据えることを求めます。基礎学力の積み重ねが、その後の専門性の深化を支える土台となります。その上で、大学という自由度の高い環境を活かし、自分が何に興味を持ち、何が得意なのかを見極めてください。自分の意思で取捨選択する経験こそが、将来の進路や人生の方向性を決定づけます。

最後に、東京海洋大学の学生であるという自覚を持って行動してください。本学の学生として社会から見られているという意識を持ち、責任ある行動を心掛けてください。日常の振る舞い、学修への取り組み、対外的な活動が、本学の評価に少なからずつながります。

以上、願いが多くなってしまいましたが、皆さん一人ひとりの成長と活躍を心より期待しています。



自立への歩みを



海洋資源環境学部長
宮 本 佳 則

ご入学おめでとうございます。皆さんはこれから、海という広大で未知に満ちた世界を対象に学びを深めていきます。その入口に立った今こそ、「自立への歩み」を意識してほしいと思います。

大学での学びは、高校までとは大きく異なります。あらかじめ用意された答えを覚えるのではなく、自ら問いを立て、情報を集め、考え抜くことが求められます。講義や実験、実習、さらには海や現場に出るフィールドワークの一つひとつは、受け身で取り組むか主体的に向き合うかによって、その価値が大きく変わります。「なぜだろう」「もっと知りたい」という探究心を、ぜひ大切にしてください。

海洋資源や海洋環境をめぐる問題は、気候変動や生態系の変化、資源利用のあり方など、国境を越えて広がるグローバルな課題です。そのため、広い視野で物事を捉え、世界の動きや多様な価値観に目を向ける姿勢が不可欠です。語学力の向上や海外の情報への関心を持つことも、皆さんの学びを一層豊かなものにするでしょう。

同時に、こうした問題に取り組むためには、他者との協働、すなわち異なる立場や専門を持つ人と力を合わせる姿勢が欠かせません。大学生活の中で多くの友人を作り、同級生や先輩、そして教員とのつながりを大切にしてください。異なる背景や考え方を持つ人々との対話は、自分自身の視野を広げ、新たな気づきをもたらしてくれます。互いに支え合い、刺激し合う関係の中でこそ、より深い学びが生まれます。

また、大学生活は自分自身を見つめる貴重な時間でもあります。入学した学科のどの分野に関心があるのか、将来どのように社会と関わりたいのか、迷いながらも構いません。挑戦と試行錯誤を重ねる中で、自分なりの方向性が少しずつ見えてきます。

自立とは、一人で全てを抱え込むことではなく、周囲と関わりながら自らの意思で選択し、責任をもって行動することです。失敗を恐れず挑戦を続けることで、皆さん自身の軸は確かなものとなるでしょう。

これからの大学生活が、皆さんにとって実り多く、未来へとつながる確かな一歩となることを願っています。

大学院入学の皆さんへ



海洋科学技術研究科長

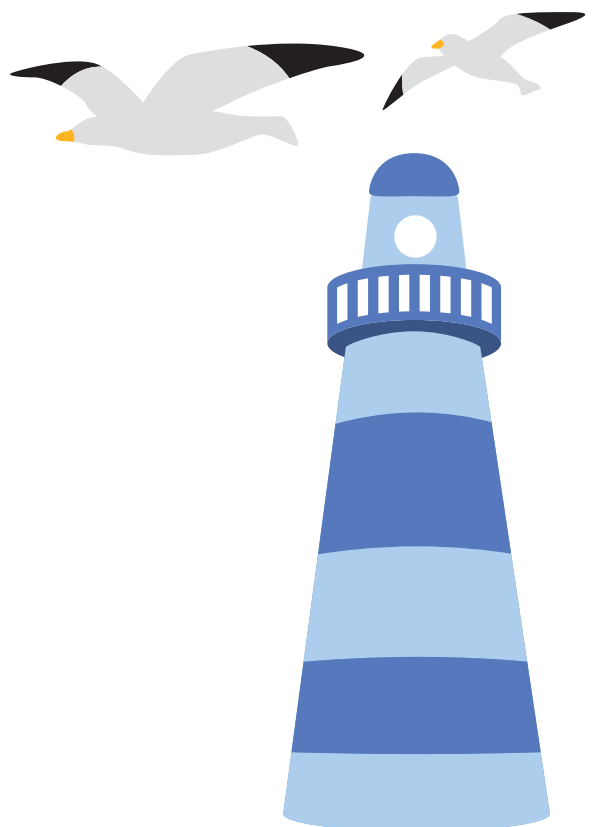
北出 裕二郎

大学院へのご入学、ご進学おめでとうございます。

皆さんは、それぞれ興味のある研究テーマを胸に抱き、大学院へ進んだことと思います。研究が順調なときは、安心して一つひとつ結果を丁寧に積み重ね、継続して進めていけると良いでしょう。しかし、常に順調にいくとは限りませんし、ときには壁にあたり、停滞することもあるでしょう。実は、そのようなときこそ、自分のポテンシャルを上げるチャンスなのだと思います。対応策は、その状況に応じて様々です。関連する文献や実験方法を見直すこともあるでしょうし、全く異なる分野から自分の研究を概観することも有効になるかもしれません。大学院生の期間は将来のキャリア形成にも大きくつながる大切な時間です。ですから、壁に当たったときには、焦らず無理せず、少し休憩して、多面的にとらえることにも挑戦してみたいはいかがでしょうか。

さて昨今では、大概のことは検索すればすぐに結果が得られる時代になりましたが、それが良い面もあれば悪い面もあります。例えば、あることについて知っていることと、その原理や論理を正しく理解していることと、さらには自らそれを実証・実行できることとは、おなじ「知っている」という言葉で表現されることがあったとしても、全くレベルが異なります。特に、結論だけを知っているという場合は注意が必要かもしれません。これから、大学院で得た研究力を武器に、社会に出て活躍していく皆さんには、先人の結論を鵜呑みにせず、ときには自ら検証して判断し、さらにその先を探求する心構えで研究に臨んでいただきたいと思います。

これまで培ってきた知識をさらに深め、研究や新しい挑戦に乗り多い時間となるよう応援しています。



2026年 出会い

入学特集

在学生から

新入生のみなさんへ

『濃密な学生生活を』

海洋生命科学部 海洋生物資源学科4年

秋山陽介

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。僣越ながら、この度は私が4年生として感じていることをお伝えします。

東京海洋大学は学生数が少なく、先輩・後輩の関わりが深いように感じます。私は先輩から学科の実習の様子をお聞きしたほか、進路相談にも乗っていただきました。また文化祭にて、学年関係なく一丸となって盛り上がったことも良い思い出です。面倒見の良い優しい先輩が多いので、授業のことやプライベートの悩みなど、不安なことは先輩に気軽に尋ねてみてください。実体験に基づいたアドバイスを得られると思います。

また専門的な大学であるため、将来の進路も考えながら日々を過ごしてほしいです。というのは私自身、あっという間の大学生活だと感じたからです。自身がどの方向に進み何がしたいのか、今は漠然としているかもしれませんが、徐々に社会の仕組みが視えるようになるので、進路のことを少しでも頭の片隅に置いておいてほしいと思います。

そして、学生のうちにたくさんの経験をしてください。部活動、アルバイト、臨海実習、留学、勇気ある人は起業でも良いです。他者と関わり、培った能力や教養、視野がきっとこれからの人生で役立ち、自身の価値をつくっていきます。大学に入学したばかりとはいえ、学生でいられる時間は残り僅かです。とにかく学生だからこそできることを見つけ、果敢に挑戦してください。

みなさんが充実した学生生活を送れることを願っています。



広島大学公開臨海実習の様子

新入生の皆様へ

海洋生命科学部 食品生産科学科4年

堀 有 咲

新しい環境での生活を前に、期待に胸を膨らませつつも、どこか不安を感じている方も多いのではないのでしょうか。そんな皆さんに伝えたいのは、大学生活は授業や研究といった学びの場であると同時に、数多くの「新しい出会い」に溢れた場所だということです。

私がそれを強く実感したのは、サークル活動を通じて北海道を訪れた際のことです。現地では、漁師さんや猟師さん、酪農家の方など、普段の生活ではなかなか関わることのない方々のお話を伺う機会がありました。実際に現場で働く方々の考え方や暮らしに触れたことで、自分の視野が大きく広がったと感じています。また、一緒に滞在していた他大学の学生と、学んでいる分野や将来の目標について語り合う中でも、多くの刺激を受けました。

現在は研究室に所属し、日本以外の出身の方と関わる機会もあります。英語で会話をする中で、自分の力不足を感じることもあります。その経験をきっかけに、以前より積極的に英語の勉強に取り組むようになりました。

こうした経験を通して得た知識や考え方、そして人とのつながりは、自分の中に少しずつ積み重なり、これからの人生を支える大切な糧になっていくのだと思います。

大学生活の数年間は、あっという間に過ぎていきます。だからこそ、人との出会いや新しい経験を大切にしながら、自分らしい大学生活を送ってください。皆さんの学生生活が実り多く、充実したものになることを心から願っています。



北海道襟裳岬にて

在学生から新入生へ

海洋科学技術研究科 海洋管理政策学専攻1年

島 田 達之心

新入生へご入学おめでとうございます。入学から一か月が経過し、最初は不安がありながらも、新しい生活にも徐々に慣れてきたころかと思います。思い返せば、私も四年前には友達ができるのか、東京海洋大学でやっていけるのか不安でいっぱいでした。というのも、大多数の海洋大学生と違い私は魚や、海洋に特別興味関心があったわけではないからです。しかし、卒論では興味があった捕鯨に関するテーマで書き、友達や部活仲間が多くできました。

海洋大学では、多様な授業が展開されており、どんな人でも必ず興味が持てるような授業があります。自分の知らなかった未知の世界の授業は図らずもとても楽しかったです。何気なく取った授業では、卒論のテーマである捕鯨に関することが解説されていました。その授業を受けるまで商業捕鯨が日本で解禁されていることを知らなかった私は大変驚きました。そこで興味をもって卒論では捕鯨をテーマに選びました。

部活やサークル選びでは、一年生の時に勧誘された様々な所へ行きました。ラグビーなんか一回もやったことが無かったのに熱心に勧誘され入部しました。ラグビー部で仲の良い先輩、後輩、同期に出会うことができました。

振り返れば、何気なく受けた授業や、部活が大学生活を豊かにしてくれました。新入生にも色々チャレンジして、大学生活を豊かにしていただきたいです！ラグビー部で待ってます！



ラグビー部での試合（筆者は11番）

学びと部活動が教えてくれたこと

海洋工学部 流通情報工学科4年

中村 颯 真

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます！
これから始まる新しい生活を前に、期待とともに「新しい環境に馴染めるだろうか」という不安を感じている方も多いかもしれません。

私が所属する流通情報工学科での学びは、非常に充実したものでした。Pythonを用いたプログラミングや、現代社会を支える物流の仕組みなど、専門的な知識を基礎から習得することができます。時には難しい課題に直面することもあります。友人や先生方に協力してもらい一つのプログラムを完成させた経験は、確かな手応えとして私の中に残っています。

また、部活動も私にとって欠かせない時間でした。私は、ダンス部で副部長として、約50人の部員とともにステージを作り上げました。その過程では、技術だけでなく、多様な考えを持つ仲間と協力し合うことの難しさや喜びを学びました。そして、協調性の大切さやコミュニケーション能力を培うことができました。日々練習に励み、同じ目標に向かって本音で語り合った日々は、今でも私の支えになっています。

大学生活で得られる真の価値は、専門知識を身につけることだけでなく、つまずいた時に手を差し伸べてくれた友人や、切磋琢磨し合える仲間との存在でもあると思います。

海洋大学には、一人ひとりの個性を尊重し、温かく迎えてくれる環境があります。最初から全てを完璧にこなそうとする必要はありません。

皆さんの歩む道のりが、多くの素晴らしい出会いに恵まれ、豊かなものになることを心より願っています。



海鷹祭での公演にて

海洋大生よ、大志を抱け。

海洋科学技術研究科 海洋資源環境学専攻1年

有江 和 真

新入生の皆さん、この度はご入学おめでとうございます。
大学生活が本格的に始まり、目まぐるしい環境の変化にも少しずつ慣れてきた頃だと思います。

まだ始まったばかりではありますが、大学で過ごす時間は、自分自身を大きく成長させることのできる限りある貴重な時間です。そこで新入生の皆さんには、その貴重な時間や多くの労力を費やしてでも、「全力で取り組みたい」と思えるものを見つけ、ぜひ夢中になってほしいと思います。

「タイパ」や「コスパ」といった効率が重視される今日この頃ですが、あえて遠回りをしてでも、長期的な目標に向かって努力を積み重ねた経験は、効率だけでは得ることのできない大きな成長や、かけがえのない出会いをもたらしてくれます。僕にとってそれは、大学から始めたラグビー部での活動でした。尊敬する先輩方や、苦楽を共にした同期、そして慕ってくれる後輩たちとの出会いを通して、僕は心身ともに大きく成長することができました。その過程では思うようにいかず挫折を経験することもありましたが、その経験も含めて今では自分にとって大きな財産になっています。僕の場合は部活動でしたが、夢中になれるものはサークルや研究、アルバイト、趣味などきっと人それぞれ異なると思います。いつか皆さんが本気で打ち込める何かに出会い、充実した大学生活を送れることを心から願っています。

最後に、もし少しでもラグビー部に興味を持ってくれた方がいれば、ぜひ気軽にグラウンドに遊びに来てください。運動部未経験者も大歓迎です！皆さんとお会いできることを楽しみにしています。



試合中 ボールを持つ筆者

新たなチャレンジ

品川キャンパス自治委員会 委員長
海洋生命科学部 海洋政策文化学科2年

安江 誠

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。品川キャンパス自治委員会委員長の安江と申します。

本年度も多くの方に自治会費の納入を行っていただいているだけでなく、自治委員会にも新規会員が加わっており、大変嬉しく思います。まだ自治会費を納めていない方は、今からでも大丈夫ですので納入していただけますと幸いです。

さて、入学から時間が経ち、海王祭も無事に開催され、海洋大に慣れた方もいればそうではない方も多いかと思えます。

まだ海洋大に慣れない新入生の皆様には、新たなチャレンジ、特にサークルや部活動への参加をお勧めします。まだ部員募集しているところも多いので、新たな自分を探しに体験に行ってみてください。かくいう私も、今年になってからラグビー部に加わり、人生で初めて運動部での生活を満喫しております。また、サークルや部活動以外にも、学業やアルバイト、旅行など大学時代にしか体験できないことはありますので、チャレンジ対象を見つけてみてください。学業では、高校までの授業より専門性が高く難しいものも多いですが、興味の湧いた授業の先生に詳しく話を聞いてみることも良い経験になります。

もし、チャレンジする対象が見つからない場合は、自治委員会に来て一緒に仕事をするか、ラグビー部に来て一緒にスクラムを組むかのどちらかを試してみてください。優しい先輩方が1から教えてくれますので、きっと新たな自分に出会える素敵な4年間になります。

大学生活で困ったことや相談があれば、些細なことでも構いませんので、自治委員会にご連絡ください。長くなってしまいましたが、皆様の海洋大ライフが素敵で実りあるものとなりますよう祈念しております。



学習院大学との定期戦にて

「迷ったときの選び方」

海洋工学部学生会長
海洋工学部 海洋電子機械工学科4年

伊藤 万泰

新入生の皆さま、ご入学おめでとうございます。新しい場に馴染みながらも、同時に心配が入り混じる時期だと思います。少し早く入学した立場から、メッセージをお伝えできればと思います。

大学生活は、これまでとは大きく異なり履修する授業、サークル、アルバイト、毎日の時間の使い方など、すべてを自分自身で決めていきます。私自身も、1年次、この授業は必要なのかどうか迷ったことを覚えています。

そこで、もしどうしようかと選択に迷ったときは、「より選択肢が広がる方」を選んでみてください。同じ機会が再び訪れるとは限りません。「試しに始める」という決断が、のちに強みになることもあります。やってみて違うと感じたなら、そのときに取りやめればいいからです。

そして、同時に責任も伴います。今の自分が下す決断の結果は、未来の自分が引き受けることになるからです。「この選択の結果を、将来の自分は受け入れられるか」といちど考えてみてください。そうすると、どんな結果でも、自分の選択に自信を持てるようになるはずですよ。

皆さまの大学生活が、人生で価値のある時間となるよう願っています。充実した大学生活を応援しております。



新しい場所

「井の中の蛙、大海を知る」

第67回海鷹祭実行委員会 委員長
海洋資源環境学部 海洋環境科学科3年

田中 誠 一

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。第67回海鷹祭実行委員会委員長の田中誠一と申します。

皆さんが入学してから少し時間が経ち、一人暮らしや通勤ラッシュ、増えた授業時間など、大学生らしい生活にも慣れてきた頃ではないでしょうか。一方で、新しい環境に戸惑いながら日々を過ごしている人もいます。

また、この期間で多くの出会いがあったのではないのでしょうか。これまで関わったことのない価値観を持つ人や、異なる地域から来た人との出会いは、高校までとは大きく違うものだったはず。その中では、「自分の常識が通じない」と感じる場面もあるかもしれません。しかし、その常識にとらわれすぎるのは、とてももったいないことです。

アルバート・アインシュタインは、「常識とは、18歳までに身につけた偏見のコレクションに過ぎない」と述べています。大学生活では、自分とは異なる価値観や考え方に触れる機会が数多くあります。だからこそ、自分の常識だけで判断するのではなく、新しい考え方を受け止め、ときには自分自身の常識を疑ってみてください。

その経験は、これからの人生を進むうえで大きな力になるはず。海洋大で仲間と切磋琢磨しながら、多くの挑戦と出会いを大切に、実りある4年間を過ごしてください。皆さんの大学生活が素晴らしいものになることを、心よりお祈りしています。



昨年度の海鷹祭ビンゴ大会の様子

おいしい大学

第66回海王祭実行委員会 委員長
海洋工学部 海事システム工学科3年

渡邊 結斗

新入生の皆様、東京海洋大学へのご入学、誠におめでとうございます。

東京海洋大学越中島キャンパスで初夏に開催される海王祭にて、第66回海王祭実行委員長を務めております、海事システム工学科3年の渡邊結斗と申します。

皆様のご入学された東京海洋大学は、ひと言で言えば「おいしい大学」と言えます。本学には海を中心とした自分の好きな分野を、実学中心に学べる環境があります。海に関する知識や経験において、物質的・精神的・文化的にも豊かさを感じられる「おいしさ」が本学にあると思っています。味気ない大学生活はもったいなく、好きなものを学べるのは十分に価値があります。理由はないけれど、好きなものは好きという気持ちが、海洋大の学生にあります。

具体的なおいしさの一例として、私の所属する海事システム工学科には、1か月以上にわたって乗船する長期実習があります。

私も1年生の夏に帆船の海王丸に1か月間乗船しましたが、同年代でこれほど貴重な経験ができる人は多くないです。夜航海の当直で、0時から4時にかけて甲板上に立ち、夜空を見上げると満天の星空が広がっていました。大変なことも確かにありますが、それ以上に「この大学はおいしい」と実感できる瞬間でした。

この「おいしい大学」で、皆さんが自分の「好き」を大切にしながら、日々を楽しみ、充実した学生生活を送れることを心より願っております！



海王丸にて

2026年度 旅立ち

卒業特集

卒業、修了する 先輩留学生から在学生へ

「From senior international students to new students」

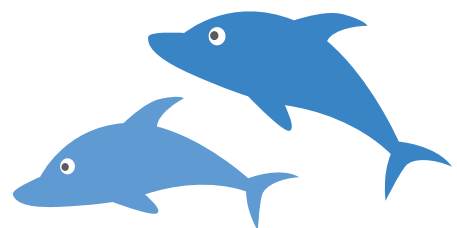
海洋科学技術研究科 応用環境システム学専攻2年

Fredeluces Ellarizza

Four years ago, I received the opportunity to study and research at TUMSAT. I was scared—unsure if it would work out or if it was worth leaving my stable life back home. But the thought "what if it works out?" excited me enough to accept the challenge. Was it easy? No. Was it worth it? Absolutely yes. I learned that the best choice is often to try, even when it scares you. If you succeed, you gain. If you fail, it hurts, but you still gain lessons. My student life becomes cherishable not only because of research but also the friendships and experiences, both inside and outside university, I built along the way. To all students reading this: I encourage you to always take the first step. Yes, it will be scary at first, and that's completely normal. Take that difficult class. Ask questions. Apply for that internship. Submit to that conference. Make new friends. Do the hobby you've been holding back. Spend time with your family and friends. When you look back on your student life, you don't want regrets. You have that choice today to make it happen.



Author



学科の特色ある



講義・実験の紹介

～シーマンシップのはじまり～ 短艇実習

海事システム工学部門 教授
村井 康二

入学試験をパスし、4月入学式を終えて第1学期がスタート。海技士ライセンスの資格取得のための教育訓練カリキュラムが大学教育と融合する本学の特色あるはじめの実習が「短艇実習」となる。

短艇実習は、これから海上に挑む者にとっては必須であり、たとえ海上に進まなくとも海洋に特化する本学で教養・専門を修得する、何らかの形で海に関与すべく“志”を抱く者にとってはすべからく、早い時期に海を知るための重要かつ最適な実習科目である。本学での実学の第一歩ともいえる。

学生は、艇の構造、各部名称を覚えることはもちろんのこと、チームによる漕艇では艇指揮によるリーダーシップと巧みなチームワークによる漕漕が必要であり、各役割を全員が実践し、実習の回数を重ね習熟することで、自然体でこれらを身につけ、本人も気づかぬうちにバランスが難しいとされるリーダー性と協調性を体得

していく。もちろん語り継がれる“常に気力と体力を”は基本的に必要とされる。

さらに、短艇実習では“ロープワーク”、“小型船舶「やよい」乗船”、“救命艇降下揚収”、“無線通信”、“救命・消火”などの実習も実施することでシーマンシップの基礎を学び修得する。学生は、平行して実施される教養科目や基礎専門科目の座学から獲得する知識を実習で獲得した技能・技術と有機的に融合していくことで、まずはゼネラリストとしての土台をしっかりと築き、スペシャリストとなるための裾野を広げていくことができる。

実習系としては、本短艇実習から水泳訓練、練習船（独立行政法人海技教育機構）による船舶実習へと繋がり、“海”・“船”を専門とする教育体系へと展開していくこととなる。

最後に「短艇実習」は昔からの変わらない実習科目であり、知っている者からすれば当たり前の内容であるが、時代を経ても変わらないユニークな実習科目であり、個人がそこから体得する内容は個々に異なることのユニークさを秘めている。それは人の成長をあらゆる角度から加速させるチャンスを有した特色ある本学教育の一つの必須実習科目であることを再認識し、本紹介の締めくくりとしたい。



小型船舶「やよい」乗船



漕漕練習

船舶の機関士、運航管理者に 必要な専門知識を学ぶ 「機関システム管理工学」

海洋電子機械工学部門 教授

吉岡 哲也

海洋工学部では海技士（機関士）や船舶の運航管理者を目指す学生を対象とした、専門的な知識と豊富な実務経験を有する教員による、独自の「機関システム管理工学」の講義を開講しています。

そもそも「管理工学」は経営資源である、「ヒト」、「モノ」、「カネ」、「情報」を柱として、科学技術とマネジメントを統合し、現実社会における問題の解決を図ることと定義され、以下を具体的な目標としています。

- 1、人の社会活動における、管理技法の最適化を考える
- 2、工学的知識や数理的要素を基に、問題解決を図る
- 3、自ら問題を見つけ出し、それを解決できる人材の育成

中でも本講義では船舶の機関プラントを中心とした、その運用、保守整備に関する技術管理、安全管理、コスト管理、そして、組織管理について、ポイントとなる考

え方や方法を論理的な視点から、事例の研究、課題のディスカッションを通じて、必要な専門知識、的確な判断力、コミュニケーション力、問題解決力を身につけることができます。海洋電子機械工学科の3年生を対象に、様々な実践的スキルを船舶の運航管理における実例を基にした、ケーススタディを通じて学びます。

- 1、機関プラントの状態を評価する方法を理解し、最適な運用と保守管理能力
- 2、機関事故防止、人身事故防止などの運航船舶の安全対応力
- 3、チームを有効に機能させるための留意事項、組織管理能力
- 4、機関プラントの効率運航技術、海運事業におけるコスト管理能力
- 5、環境対策に関する国際的動向の把握、船舶運航における管理対応力

加えて、安全運航に欠かせない、チームマネジメントや「Engine room Resource Management（通称：ERM）」に有効な、海運企業の研修施設と同仕様の「船用ディーゼルエンジンルーム・シミュレーター」を用いて、実践的な理解を深めます。



船用ディーゼルエンジンルーム・シミュレーター

大学での学び方

実習感想記



海洋資源キャリア実習体験記

海洋資源環境学部 海洋環境科学科4年

谷口小春

海洋資源環境学部では、3年時に海洋資源環境キャリア実習という、2週間ほど海外に滞在する実習があります。私はそのキャリア実習に参加し、9月11日から21日にかけてフランスで実験や施設の見学を行いました。

本実習はヴィムルーというフランス北部の街で行われました。私たちは主にリール大学のlaboratory of Oceanology and Geoscience(LOG)に滞在し、現地のローレン先生のもとで実験を行いました。流速およびマイクロプラスチックがムール貝に与える影響について、ローレン先生とともに実験を行い、議論を行いました。実際に海外の研究者の方と英語で議論できる機会はとても貴重で、新たな知見や考え方を得ることができま

した。一方で、自分の英語が拙く、うまく意図を伝えられない時もあり、もっと英語を勉強して、たくさんの人と話してみたいと思うようになりました。

施設見学では、地元の醸造場や、ルーブル美術館の別館、船上から洋上風力発電など様々な施設を見学しましたが、特にナウシカ国立海洋センターが印象に残っています。ここでは水槽の展示だけでなく、船や潜水艦についての展示や地球温暖化や環境変動について強い危機感を伝える展示があり、来館者に海を多角的にみてほしいという意図が感じられました。こうした展示を通じて海を様々な観点から活用・理解することの重要性を実感するとともに自分が学んでいる分野が国際社会とどのように結びついているのかを考える機会となりました。

最後に、キャリア実習は期間こそ短いものの、自分の将来を考えるにあたってとても有意義なものになりました。本年度以降参加される皆様にとっても意味のあるものとなることを期待しております。



ローレン先生からムール貝についてレクチャーを受けている時の写真

実習感想記

海洋資源環境学部 海洋資源エネルギー学科4年

小林 想

海洋資源エネルギー学科では、海洋の利用や開発について幅広く学びます。なかでも、3年次に開講される「海洋資源エネルギー学実習Ⅱ」は、本学科を象徴する実践的な実習のひとつです。5日間にわたって船上生活を送りながら、実際に海洋の探査・調査を行うこの実習は、本学科の実習カリキュラムの中では唯一、本格的な乗船調査を体験できる貴重な機会だと思います。

海洋研究の現場では自然が相手である以上、すべてが予定通りに進むわけではありません。実際に私たちの実習でも、海況の悪化によって採水調査が延期となり、予定が大きく変更されることがありました。しかし、こうした経験によって海洋研究の現場の空気を感じることができました。講義を受けているだけでは経験できないアクシデントも実習の醍醐味だと思います。

実習では、教科書や講義で学んだ知識を実際にどう生かせるのかを学びます。しかし、海の上で調査をしてみると、「なぜこの方法で観測するのだろうか」「この調査機材はどのような使い方をするのか」と、新たな疑問が湧いてきます。私は、本当の意味で知識を理解している感覚は、体感してはじめて得られると考えています。

机の上で勉強していただけた知識には血が通っておらず、中身が伴っていない状態になってしまいます。海洋大には多くの実習があり、これから実習を受ける機会のある在学生の皆さんは積極的に実習に参加してほしいと思います。



実習船神鷹丸



実習中にすれ違った汐路丸

資格取得に向けて



「私の選んだ道」

海洋生命科学部 海洋政策文化学科4年

梶 浦 佐和子

私が所属する海洋政策文化学科では、大きく「海技関係」「教育職員免許（理科、水産）」「学芸員」の3種類から資格取得を目指すことができます。ただし、実習等の都合上、海技士と学芸員は同時取得ができない点には注意が必要です。

さて、この私かというと、現在「教職（水産）」「海技士（専攻科）」の2つを目指しています。経緯としては「3種類全部講義を受けてみる→単位の取得状況や履修ペース、将来像が見えてくる→2つに絞った」という形です。実際、このような履修をしてみてどうだったかというと、当然のことですが単位数が膨大になりました。入学時の

TOEICがボーダーを超えていたため、他の科目を履修することができたという事情はありますが、資格関連科目は他学部・他学科や卒業要件外の科目が多く含まれるため、卒業要件を確認しながら履修を進めるのはとても大変です。さらに、3年次の乗船実習Ⅱを4年次に回したことによって、3年次のうちに卒業要件科目をほぼ全て履修する必要が生じ、悲鳴を上げることになりました。

このような状況の中、私が資格取得に向けて努力を続けられている理由は、「知らないことを知るのが楽しい」と思える興味関心があるためです。共に学ぶ仲間との交流や、興味のあることを学ぶ楽しさ・面白さがあるから頑張っています。

以上、資格取得に関する私の実体験を書きましたが、このような進め方は流石に真似しない方がいいです。自分に合ったペースと計画で、楽しく・納得のいく資格取得の道を歩んでください。



大学院で学べること



大学院で学べること

海洋科学技術研究科 海洋システム工学専攻1年

阿部悦也

はじめまして。海洋システム工学専攻、修士1年の阿部と申します。

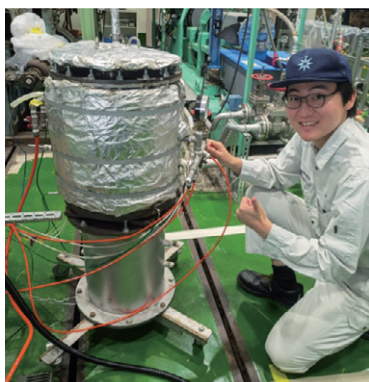
私は昨年10月に大学院博士前期課程に入り、約半年が経ちました。

私が大学院で重要だと考えるスキルは「人にわかりやすく物事を伝える」というものです。研究は学生の主体性が重要であることは前提として、研究に行き詰まった際の先生方からの助言はとても有意義で頼もしいものです。しかし、有効な助言を得るためには、自分の頭のなかにある、「これがやりたい」「あれがやりたい」というイメージを言語化し、さらには図や表を用いてわかりやすく伝えるというプロセスが必要になります。これが本当に難しいのですが、学生のうちに実践を通して「物事の伝え方」を学べることは、大学院に進学する大きなメリットだと思います。

その他にも大学院にいれば、自分の足りない部分が多々出てきます。「学部の時にもっと勉強しておけばよかった」や、「過去の自分はなんて下手な資料を作っているんだ」等、日々後悔と反省の連続です。ただ、自分の至らない点に気づくというのも学びの一つかと思えますし、それを工夫して解決していく過程で、さらに自分を成長させることができると思います。

最後になりますが、もし大学院を志す方がこの文章をお読みでしたら、学部生のうちに自分のテーマに関する知識を深めてください。曖昧なまま進めると、大学院に入

って荒波の中を進むことになり大変後悔します。海洋大生なら、「荒天航海」は避けましょう。



実験風景

大学院での学びと気づき

海洋科学技術研究科 応用生命科学専攻1年

杉原ちひろ

大学院での学びを1つ挙げるとしたら、「自ら問いを立て、納得いくまで考え抜く力」です。博士前期（修士）課程から博士後期課程へと進む中で私が実感しているのは、大学院とは単に知識を深めるだけでなく、徹底的に自分の頭で考えるチャンスがたくさんある場所ということです。

学部生までは、用意された課題に正解を出すことが中心でした。しかし研究の世界に答えはありません。実験がうまくいかない、解決策が見つからない。そんな行き止まりにぶつかるたびに、自分の力で方法を探る必要があります。私は修士課程を通じて、「自分で考えているつもりでも、実は浅かった」という痛い経験を何度もしました。例えば、即興の質疑応答で、自分の考えの根拠を問われ、言葉に詰まってしまい、その度に自分の思考の甘さに気づかされました。だからこそ、試行錯誤の末に自分なりの答えを見つけ、それを誰かに伝えられた瞬間の達成感は何物にも代えがたい面白さがあります。

こうした試行錯誤を納得いくまで繰り返せる時間は大学院の贅沢な特権です。特に本専攻は、1つの課題に対して生物、化学、工学など多様な専門領域からアプローチする先生方が集まっており、自分の考えを多角的な視点から磨き上げられる点が大きな魅力です。

ここで養われる「納得いくまで考え抜き、形にする力」は、今後どんな進路を選んでも一生モノのスキルになると確信しています。この恵まれた環境で、存分に楽しんで学びきりたいです。



修論発表後の1枚(筆者左2番目)

大学での学び方

卒業論文・修士論文への 取り組み方



卒業論文への取り組み方

海洋科学技術研究科 海運ロジスティクス専攻1年

町 勇 汰

物事に取り組む際に最も重要なことは作業環境を意識することだと思う。例えば、読書をするときには風が強いところやうるさいところを避け、静穏な環境を選ぶ人は多いだろう。数時間程度の読書でさえ環境に左右されるのだから、卒業論文の執筆という長期間にわたる作業においてはなおさらだろう。

卒業論文において、足しげく研究室に通い、頻繁に先生に相談し、こつこつと研究を進めることは、重要な方法だ。しかし、これを習慣づけることは容易ではない。行動の継続には、内的動機付けが重要らしいが、研究に対して最初から強いモチベーションを持つのは困難だ。そこで僕は、いきなり真正面から向き合うのではなく、まずは作業環境という周辺要素からアプローチすることを提案したい。

作業環境の構築とはいわば盆栽のようなもので、最初は手間に感じる作業でも、開発環境や文献管理ツール、ノートアプリなどのカスタマイズ、あるいはデスク周りの整理など、自分好みに洗練させていく過程は趣味の一つにすらなり得る。枝葉を整えるように丹念に作り込んだ環境は、「これを使って研究したい」という自然な動機付けを生むだろう。当然、手塩にかけた分だけ作業効率も向上するはずだ。

作業環境は、粗末にすれば向かい風となり行動を阻害するが、適切に手入れすれば継続を後押しする追い風となる。夢中になりすぎると、むしろ時間を浪費してしまう点には注意が必要だが、まずは身の回りの環境を意識するところから始めてみてはいかがだろうか。

修士論文への取り組み方

海洋科学技術研究科 応用環境システム学専攻1年

板 倉 陽 輝

修士の研究テーマは専門性が高く、参考となる情報がなかなか見つからない場合が多いと思います。研究を始めたばかりの頃は、知らない単語や理論に戸惑い、慣れない実験に苦勞することも少なくないのではないのでしょうか。このような状況の中で、研究をいち早く軌道に乗せ、理解を深めるためには、自ら主体的に取り組む姿勢が重要だと思います。

研究の主役は自分自身です。先生の指導のもと研究を進めながらも、気になった点を放置せず、自ら調べ、検証することが大切だと思います。その過程で実験手法の改善点や新たな疑問が見えてくると、研究の面白さを実感できるようになります。そして、その「面白さ」を客観的なデータとして示す方法を考え、実証し、得られた結果を丁寧に考察していくことができれば、修士論文の執筆のみならず、その後の社会においても活躍できる力が養われるのではないかと思います。

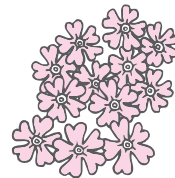
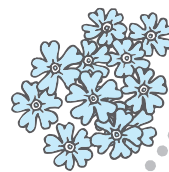
また、研究室の仲間と協力し、支え合うことも大切にしてください。一人では考えが行き詰まったり、体力的に苦しい時期が訪れたりすることもあると思います。そ



卒業式の写真

のような時は周囲を頼り、また自分も周りを助けてあげてください。こうした経験の積み重ねが、研究者としてだけでなく、一人の社会人としての成長にもつながっていくと思います。皆さまの大学院生活が実り多いものとなるよう、心よりお祈り申し上げます。

卒業生より



業界で活躍している OB・OGの方々

学びとご縁がつないだ食品安全のキャリア

2012年9月 海洋科学技術研究科 食品流通安全管理
専攻（博士前期課程 修了）

田中 千可子

私は大学で畜産学を専攻していました。高校時代は馬術部に所属し、動物が大好きな学生時代を過ごしていました。専攻課程では「家畜人工授精師」の資格取得が可能で、当時は肉質改良など畜産分野の発展に貢献したいという思いを持って学んでいました。結果として資格を直接生かす道へは進みませんでした。その時に学んだ知識や視点は、その後の人生に大きくつながっていきました。

卒業後は、品川の食肉市場内の会社に勤務しました。当時は経済成長期でもあり、牛肉の輸入自由化を背景に、輸入食品が急速に増加していた時代でした。一方で、日本の食料自給率はカロリーベースで50%を下回り、「自分たちが口にしている食品の半分は海外から来ている」という現実、漠然とした危機感を抱くようになりました。

その中で関心を持ったのが、輸入食品の安全を水際で守る「食品衛生監視員」という仕事でした。畜産学課程修了者には受験資格があり、私は厚生省に採用され、検疫所で輸入食品安全監視業務に従事することになりました。主要な港や空港の検疫所において、輸入食品の安全監視や指導、理化学的・微生物学的試験検査、さらには感染症の国内侵入防止業務など、幅広い業務を経験しました。食品安全を支える社会的責任の大きな仕事であり、多くの学びを得ることができました。

その後、家庭環境の変化もあり、約13年間携わった仕事を離れることになりました。しかし、私は好奇心旺盛な性格でもあり、銀行や区役所など、様々な分野での仕事も経験しました。異なる環境で働いた経験や、そこで出会った人たちは、今でも大切な財産になっています。

その後、厚生省時代の先輩とのご縁をきっかけに、再び食品安全の分野へ戻る機会をいただきました。そして海洋大学大学院に進学し、「グローバルな食品安全」について学ぶこととなりました。

大学院では、専門知識豊かな先生方、多彩な分野の社会人学生たちと共に学びながら、フードサプライチェーン全体における食品安全マネジメントについて体系的に学びました。「ISO22000主任審査員コース」において食品安全マネジメントを学び、審査員資格を取得しました。その後、認証機関とのご縁をいただき、審査員として採用され、現在は主任審査員としてISO 22000およびFSSC 22000の認証業務に従事しております。また、後進育成を目的とした教育プログラムや研修業務にも携わり講師も担当しております。さらに、2020年から食品流通安全管理専攻の兼任教員（非常勤講師）として、後輩となる学生の皆様とのおつきあいを持つ機会にも恵まれました。

海洋大には私のキャリアを後押ししてくれた充実した環境がありました。学生時代の学びや人とのご縁は、思いがけない形で将来に生きてくるものです。皆さんのこれからの活躍を楽しみにしています。



筆者は右から2人目、左から2人目は専攻修了生の早川典雄 先生
（現、食品流通安全管理専攻 非常勤講師）

新任教員の紹介



海洋生物資源学部門 助教
国松 翔太

2026年4月1日付で、海洋生物資源学部門の助教に着任しました国松翔太(くにまつ しょうた)と申します。

専門は水産資源解析学です。気候変動や生物多様性の減少が深刻化する中、水産資源の持続可能な利用は食の安全保障と生態系保全の両面で喫緊の課題となっています。統計学・データサイエンス的手法を駆使して魚介類の資源状態の診断やより良い漁獲方策の提案を行っています。

水産資源解析学において根幹となるのは数理統計学的モデルの開発・応用です。さらに、資源動態を時系列データとして捉えると個体群生態学の手法が有効ともなりますし、個々の種の生態的特性の理解にはマクロ生態学、気候変動への適応可能性の予測にはゲノム科学、生態系全体の構造変化を問うには群集生態学、政策効果の評価には漁業者の行動原理や経済性を扱う社会科学が、それぞれ欠かせません。AIの急速な発展は研究プロセス自体を変革しつつあり、膨大なデータを扱う水産資源学はその影響が特に大きい分野です。AIを使いこなすことは、今後不可欠なスキルとなるでしょう。基礎科学から政策実装まで距離が短く、多彩な学問が交差するこの分野では、個々の興味や強みに応じた切り口からアプローチし、それぞれのかたちで貢献できるところに醍醐味があります。

こうした多岐にわたる科学的手法・知見を統合しつつ、複雑な海洋生態系の実態に迫り、海の恵みを将来世代へ引き継ぐ持続可能な社会の実現にむけて皆さんとともに挑んでいきたいと思っています。

食品生産科学部門 助教
中村 柚咲

2026年4月1日付で食品生産科学部門食品物性学研究室に助教として着任いたしました、中村柚咲と申します。本学にて2025年に博士号を取得後、博士研究員として勤務してまいりました。この度、母校での教育研究活動の機会を頂き、大変嬉しく思います。

専門は、食品のテクスチャーや保水性、色調などの物理的性質を扱う食品物性学であり、水産物を主な研究対象としています。これまで、水産ねり製品やからすみ等における加工法を検討し、力学的特性や保水性の制御を通じて、製造工程の改善や最終製品の品質向上に取り組んでまいりました。また、生食用鮮魚の品質向上や可食期間延長を目指し、魚類の致死処理や脱血処理の最適化に関する研究も進めています。

日本の魚食文化は世界へと広がり、“SUSHI”や“SASHIMI”、“SURIMI”等の言葉は国際的に認知されています。一方、我が国の水産業では漁獲量の減少、魚離れ等課題が山積しています。そこで、これら課題の解決と国際競争力強化に資するため、水産食品科学分野の知見をベースに、海洋分野について総合的に探究できる本学の環境を活かし、新たなブルーエコノミー創出に向

けた学際的教育研究を推進してまいります。

学生時代は校歌にあるように「好きなことを好きなだけ」学ばせていただきました。今後は、学生そして社会へ成果を還元できるよう精一杯尽力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



トルコのクロマグロ養殖場にて



海事システム工学部門 教授
片岡 敏彰

本年1月1日に、海事システム工学部門に着任を致しました片岡敏彰です。法学教員として、海法Ⅰ、海法Ⅱ、契約法の授業を担当します。

私は、昨年未まで長年亘って損害保険会社に勤務し、その間、海上保険、中でも商船に関する保険商品の取扱いに携わって参りました。船舶保険の実務家として、海運業・造船業に従事する数多くの方々とは知己を得ることとなりましたが、私が社会人となった1988年は、1985年のプラザ合意によって急激な円高が進み、日本人海技者及び日本の海運・造船業にとって極めて厳しい環境であったことが思い出されます。そうした厳しい環境を様々な工夫と努力によって乗り越え、産業としての重要性を保った形で現在に至る歴史を目の当たりにして参りましたが、その背景には、海技に関する技術の発展と伝承とに携わって来られた本学の諸先輩並びに現職の教職員の方々のご努力があったればこそと認識しており、皆様には心から敬意を表します。

食料及びエネルギー資源の自給率の低い島国という条件の下、1億超の人口を抱える我が国において、海運・造船業とそれを支える海技者の重要性については議論の余地が無く、将来に亘ってそれらの産業の礎となる人材を育成するというミッションに携われることは、私にとって無上の喜びです。

研究者、教育者としての研鑽を重ね、微力ながら本学の発展に寄与出来ればと考えております。宜しく願い申し上げます。



海事システム工学部門 准教授
齊藤 学

みなさま、こんにちは。新たな職場で自己紹介を行うのは3度目でして、渡り鳥のようやや気恥ずかしさとともに、感慨深く思います。渡り鳥といえ、コンテナ船にて太平洋を横断した際に、1羽のフクロウ目であろう凜々しい鳥が突然現れたと思えば、船橋ハンドレールで羽を休め、ガラス越しに私と長時間見つめ合ったのは何かの縁を感じました。

前置きが長くなり恐縮です。2026年4月より海事システム工学部門に着任しました齊藤学です。本学乗船実習科を修了し、外航海運会社及び船員養成機関において、

それぞれ約7年ずつ経験を積んで参りました。端的に申せば、船員実務と教育訓練という2つの主機を用いて、2軸船のように力強く歩みを進めています。主機の回転数は多少上下して手間がかかりますが、舵取りは要所で出会ってきたGreat Captainのみなさまのおかげで、現在地にたどり着いたのだと思います。

瀬戸内海を航行する校内練習船の船長職も経験していますので、船舶職員養成科目を中心に講義を担当します。また、現場実務にて気づきを得て専門的に取り組み始めている、「衝突海難防止を中心とした安全運航を達成するための船員向け教育訓練」に関する研究を進めていきます。

伝統と格式のある本校で、教育者として人を育て導く可能性は大海原のように無限大です。研究者としても、出会った鳥のように時に羽を休めつつ、広く優れた視野で目的地まで必ず達する、そうあり続けたいと思います。



海事システム工学部門 准教授
平田 英隆

2026年4月に海事システム工学部門に着任しました平田英隆と申します。新たな環境でより一層、研究・教育に精進する所存です。どうぞよろしくお願い致します。

私の専門は気象学です。特に、黒潮などの中緯度域の海が、急発達する温帯低気圧（通称、爆弾低気圧）や豪雨・豪雪へ与える影響について研究してきました。これまでの研究では、海が日本の天気や自然災害の発生に関与する気象現象に大きく作用することを実証してきました。これらの成果は、海に囲まれた日本の気象をよりよく知るためには、海と大気との関係について理解することが極めて重要であることを示しています。ご縁があり国内唯一の海洋系大学である東京海洋大学に着任しましたので、今後も『海』が関わる気象研究のフロンティアを開拓していきたいと考えています。

教育面では、専門性を活かして、講義・実習や研究指導を行っていきます。海事システム工学部では大気環境学、船舶実験など、大学院海洋科学技術研究科では環境予測論、海洋環境工学などを担当します。また、環境科学研究室にて、海洋物理学・衛星海洋学を専門とする小橋史明教授と協同して、海洋・大気中で生じる諸現象や大気海洋相互作用に関する研究指導を行っていきます。学生とともに最先端の研究を推し進めるとともに、研究活動を通して学生の成長をサポートできればと考えています。



海洋環境科学部門 准教授
板倉 光

2026年4月に海洋環境科学部門(海洋資源環境学部)に着任しました板倉光(いたくらひかる)と申します。東京海洋大学の皆さま、これからどうぞよろしくお願い致します。私の専門は生態学で、沿岸の海や河川に生息する魚類の生態や生活史について研究しています。特に、海と川を行き来する通し回遊魚を対象とし、急速な環境変化に彼らがどのように応答するのか?生活史や回遊の多様性、異なる生態系の繋がりが個体群の維持にどのように寄与するか?に興味を持って研究を進めています。これらの生態を明らかにするために、発信機を取り付けた魚を受信機で追跡するバイオテレメトリーを使った行動観測や、生物組織の分析によって個体の過去の生態履歴を調べる手法を用いています。野外調査を軸としていますが、得られたデータの解析にも力を入れています。

研究は一見すると個人プレーのように見えますが、実はかなりチーム戦の要素が強い団体スポーツだと思っています。僕自身、一人で研究することはほとんどなく、常に共同研究者の方と一緒に研究を進めています。仲間と協力しながら研究を進め、まだ世界の誰も知らないことを発見したり、未解決の問題に挑んだりすることは実に楽しく、ワクワクが止まりません。魚が見せる多様な生き様をチームワークで解き明かしたい方は、ぜひ一緒に研究しましょう!また、本学には魚や生き物が好きな学生さんがたくさん在籍されていると伺っています。皆さんとお話しできるのを楽しみにしています!



海洋環境科学部門 助教
楊子江

このたび、東京海洋大学学術研究院海洋環境科学部門に助教として着任いたしました楊子江と申します。2021年にメリーランド大学大学院環境工学専攻博士課程を修了後、同大学および東京海洋大学において博士研究員として研究に従事してまいりました。

専門は海洋環境科学であり、特に海洋中のマイクロプラスチックの分布特性やリスク評価に関する研究を行っています。これまで、赤外分光法やラマン分光法を用いた分析手法の開発・最適化に取り組むとともに、カーボンインデックス(プラスチックの劣化度)の評価・標準化に関する研究を進めてまいりました。また、海底

ごみの存在量推定や回収効率の評価に関するモデルの応用・改良にも取り組んでおります。さらに、モンテカルロ法や非線形解析を用いたシミュレーションにより、環境データの統計解析の精度向上を目指しております。

本学においては、「環境動態学」を分担し、環境中における物質の移動や変化を理解するための計測・解析手法、およびその基盤となる光学の知識について指導してまいります。学生が主体的に考え、データに基づいて課題解決に取り組む力を身につけられるような教育を心がけたいと考えております。

今後は、本学の特色を活かしながら、海洋環境問題の解明とその解決に貢献できるよう研究を進めてまいります。また、教育を通じて社会に貢献できる人材の育成にも努めてまいります。よろしくお願いいたします。



海洋資源エネルギー学部門 教授
小林 厚志

2026年4月より海洋資源エネルギー学部門に着任いたしました小林厚志です。新しい環境で意欲あふれる皆さんと共に学ぶことを心から楽しみにしています。

私の専門は「新しい物質」を創り出す化学です。現在は、太陽の光を利用して海洋資源から有用な物質やエネルギーを創り出す「人工光合成」の研究に注力しています。自分が生み出した新しい物質によって、地球のエネルギー問題を解決する——そんな夢を抱きながら、日々実験室で分子と向き合っています。一見難しそうですが、料理のレシピを考案するように、「どの要素を組み合わせれば魔法のような反応が起きるか」を考える、ワクワクする学問です。

今でこそ教壇に立っていますが、実は私、大学4年生の時に教員免許が取れなかったんです。教育実習まで終えていたのですが、いざ卒業研究が始まるとその面白さに取り憑かれてしまい、没頭しすぎるあまり、免許取得に必須な単位を「たった一つ」だけ落としてしまったのです。それほどまでに心を動かされるものに出会えたことは、今の私の大きな財産になっています。

大学は驚くほど自由です。だからこそ、勉強はもちろん、それ以外の「いろんなこと」に全力でチャレンジしてください。一見無駄に見える遠回りや、私のような失敗さえも、皆さんの人生の幅を広げる糧になります。研究のこと、趣味やアルバイトのこと、あるいは失敗した時の立ち直り方(笑)など、いつでも気軽に話しに来てください。一緒に新しい海洋大を創り出す化学反応を起こしていきましょう!



海洋資源エネルギー学部門 准教授
針金 由美子

2026年4月1日付で海洋資源エネルギー学部門の准教授に着任しました、針金 由美子（はりがね ゆみこ）と申します。2009年に静岡大学で学位を取得した後は金沢大学とアメリカのヒューストン大学でポスドク、2011年から経済産業省所管の産業技術総合研究所 地質調査総合センター 地質情報研究部門で研究職として在籍し、現在に至ります。私は構造地質学、岩石学を基盤として、はんれい岩やかんらん岩といった海洋プレート深部物質を用いた海洋プレート構造の実態とその周辺のテクトニクスについて研究しています。研究対象は中央海嶺域や背弧-前弧-島弧域で、日本周辺海域のほか、太平洋、大西洋、インド洋や北極海などの海洋底をフィールドにしています。また、前職では、日本周辺海域における海底鉱物資源の広域ポテンシャル評価に資する地質基盤情報整備として、新たに海底火山の調査研究も実施してきました。

こうした研究活動を通じて、地球科学の魅力をより多くの人と共有したいと考えるに至り、大学への異動を志しました。本学では、これまで培ってきた調査観測・分析解析の経験を活かして、研究・教育に尽力していきたいと考えています。本学において教育に携わるのは初めてであり、不慣れな点もたくさんあるかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。



次世代船舶運用技術開発センター 教授
柳 東 勲

令和8年3月1日付で次世代船舶運用技術開発センターに着任しました、柳東勲（ユ ドンフン）と申します。私は韓国の出身ですが、神戸大学大学院海事科学研究科の学生国際交流プログラムへの参加を機に日本の大学との縁が生まれ、同研究科の博士後期課程を修了しました。その後は、海上技術安全研究所で5年間、日本海事協会でも10年間勤務し、研究と実務の両面から海事分野に携わった上で、このたび東京海洋大学に着任いたしました。私の専門分野は、船用機関の性能分析、窒素酸化物や硫黄酸化物、亜酸化窒素などのエミッション低減および代替燃料の活用による二酸化炭素低減技術の開発と評価です。

本校ではこれまでの知見を活かし、普及が進んでいるLNGやLPG、さらには水素、アンモニアといった次世代燃料を使用する船舶について、運用側の視点から必要

な技術的課題を把握し、より安心・安全な運用手法の構築を目指します。また、その運用技術を将来船社や海運会社を目指す学生たちへ確実に伝えることで、実践的な知識を備えて社会へ羽ばたく人材を輩出することを目標としております。

着任してまだ日は浅いですが、学生、職員、そして教員の皆様が一丸となり、より良い東京海洋大学を築こうと尽力されている姿を何度も目にしました。私もこの伝統ある大学の一員として貢献していきたいと思っております。

最後になりますが、韓国語や韓国の文化に興味をお持ちの方は、いつでもお気軽に教員室のドアをノックしてください。皆様とお話できるのを楽しみにしております。



海洋AI開発評価センター 助教
平 賀 和 徳

2026年4月1日より海洋AI開発評価センターに着任しました平賀和徳と申します。本学では「海洋AIワークショップⅡ」を担当します。また、卓越大学院プログラムのコーディネーターとして活動をしてまいります。東京海洋大学発ベンチャーの企業にも所属しており、船舶の省エネ手法の開発にも取り組んでおります。私は卓越大学院プログラムの第1期生としてAIを活用したエンジン音の解析ツールの開発について研究をしておりました。本研究では、エンジン音の解析を行い最も燃費の良い運転点を操船者に伝えるというアプリケーションの開発を目指しておりましたが、PCへの負荷が大きく最終的にはAIを使わない方がエンジン音の解析の時間短縮とPCへの負荷が小さい結果になりました。さらには、現場に受け入れてもらえる形にできておらず、現場のニーズに即した技術開発の重要性を痛感しました。

こういった経験から、あくまでもAIは目的ではなく課題解決をするための手段とした位置づけで活用することの重要性を伝えていきたいと考えております。

海洋分野における課題への読解力を身に付けていただき、その課題解決の方法を設計できる優れた技術者を育成できるようサポートしてまいります。

2025年度 自治委員会・学生会 報告書

●2025年度学生大会報告

品川キャンパス自治委員会 委員長
安江 誠

2025年度は、定例学生大会を前期及び後期の2回開催し、以下に示す2025年度分及び2024年度分の自治会費配分を決定いたしました。

また、後期定例学生大会では、品川キャンパス自治会規約及び品川キャンパス自治委員会規約の改正を行いました。自治会規約の改正では定例学生大会の開催日程をより柔軟に決定できるようにし、自治委員会規約の改正では自治委員会の活動内容として課外活動団体の活動支援を盛り込んだ他、サークル委員会からの役員補填に関する規則の一部変更をおこないました。

その他にも、新サークル設立の報告なども行いました。

以下、2025年度自治会費収支報告を掲載いたします。

●2025年度自治会費収支報告

〈収 入〉		(円)
繰越金		
令和6年度余剰金	5,359,887	
自治会費		
新入生 (20,000×208人)	4,160,000	
編入生 (10,000×6人)	60,000	
利息		
8月分	5,167	
2月分	3,143	
寄付及び各種事業の利益		
寄付金	0	
事業収益	0	
課外活動団体からの令和6年度未就行戻入金	0	
計	9,588,197	

〈支 出〉

2024年度自治会費配		
サークル委員会(50%)	920,000	
海鷹祭実行委員会(50%)	920,000	
振込手数料	440	
計	1,840,440	

2025年度自治会費配		
自治委員会印刷機固定費 (12%)	500,000	
サークル委員会 (44%)	1,840,000	
海鷹祭実行委員会 (44%)	1,840,000	
振込手数料	1,100	
計	4,181,100	

〈収支〉

収入	9,588,197	
支出	6,021,540	
計	3,566,657	

●2025年度 海洋工学部学生会報告書

海洋工学部 学生会 会長
伊藤 万泰

令和7年度決算概要		(円)
前年度からの繰越金	475,323	
令和7年度収入	5,109,098	
収入総計	5,584,421	
令和7年度支出	4,334,514	
繰越金	1,249,907	

実行委員長から

海王祭の紹介



汽水域の世界

第66回海王祭実行委員会委員長
海洋工学部 海事システム工学科3年

渡邊 結斗

皆様、はじめまして。第66回海王祭の実行委員長を務めておりました、渡邊結斗と申します。

本年度の第66回海王祭は、例年よりも1ヵ月早い2026年5月16日、17日の2日間にわたって開催されました。

今回の海王祭は「汽水域」という言葉をテーマに掲げ、半年以上の準備期間を経て実行委員一同で創り上げてまいりました。汽水域とは、海水と淡水が混ざり合う水域といった意味になります。私たちは、これまでの諸先輩方が築いてこられた越中島キャンパスらしさを表す企画を海水と見立て、専門性を強みとする東京海洋大学では得る機会が比較的少ないポピュラリティを表す新企画を

淡水と見立て、企画を進めてまいりました。これら海水と淡水を混ぜ合わせた汽水域の世界にて全く新しく、一見調和してないように見える、ただしどこか心地がよいと感じる、良い違和感を生み出せておりましたら幸いです。

本祭には、述べ1万2000人の皆様にご来場いただきました。

そしてこの海王祭が実現できたのは、様々な形でご支援してくださった企業、団体、地域の皆様、大学関係者や本学の学生の皆様の支えがあってこそです。この場を借りまして、心より御礼申し上げます。

また、海王祭を共に企画・運営を行ってくれた第66回実行委員の力があってこそでした。重ねて深く感謝申し上げます。今度とも、第67回海王祭ならびに実行委員会への変わらぬご支援を賜りますよう、よろしく願いいたします。



筆者は前列左から5番目

ニュース & トピックス

品川キャンパス青鷹寮(国際混住寮)を開設しました

東京海洋大学ではこの4月に、品川キャンパスにおける学生寮(朋鷹寮)及び国際交流会館の老朽化や、グローバル化が進展する中での留学生等の居室不足へ対応するために青鷹寮(国際混住寮)を開設しました。

■ 青鷹寮の概要

所在地：東京都港区港南 4-5-34

構造・階数：鉄筋コンクリート造・地上 10 階建て

総戸数：約 352 戸(単身用A、B、夫婦室、家族室等)

これに先立ち、2026年3月6日(金)に竣工記念式典を執り行い、当日は本学関係者をはじめ、設計・施工を行った事業者、公募により青鷹寮の名称を提案した学生等が出席し、完成を祝いました。

■ 青鷹寮の名称について

「青鷹寮」の名称は、本学を象徴する「青」と、これまで本学の船舶名などで親しまれてきた「鷹」を組み合わせたものであり、本学らしさを端的に示す名称として選定されました。

名称の由来には、長年にわたり学生の実習を支えてきた元練習船「青鷹丸」の名前を未来へ引き継ぎたいという思いが込められています。また、「青」には地球規模の海洋を志す学生の活躍と、誰もが受け入れられる国際的な寮を目指す姿勢を重ねています。「鷹」には、令和8年3月末に役割を終える朋鷹寮の伝統を継承し、本学の歴史を大切に受け継いでいくという意味が込められています。

青鷹寮の名称は、本学の歴史と伝統、国際性、そして海洋の未来を創る学生への期待を象徴するものです。



青鷹寮外観



単身Bタイプ個室(例)



交流スペース



竣工記念式典

令和7年度3月期学位記・修了証書授与式を挙行了しました

令和7年度 学位記・修了証書授与式を、3月25日（水）に越中島キャンパス越中島会館講堂にて挙行了しました。



式典の様子

今年度の卒業生・修了生は、学部卒業生468名、海洋科学専攻科修了生33名、博士前期課程修了生247名、及び博士後期課程修了生25名の計773名でした。

来賓の方々にもご臨席いただき、卒業生・修了生の門出を祝う温かい雰囲気の中で開催され、それぞれ授与された学位記・修了証書を手に、思い出の詰まった母校から旅立ちました。

井関学長が式典中に読まれた式辞の全文は、大学ホームページ（以下のQRコード）からご覧いただけます。

大学ホームページのQRコード



令和8年度入学式を挙行了しました

令和8年度入学式を、4月7日（火）に越中島キャンパス越中島会館講堂にて挙行了しました。

今年度は、学部生473名、海洋科学専攻科生43名、乗船実習科生55名、博士前期課程286名、博士後期課程34名の計891名が、東京海洋大学生として新たな一歩を踏み出しました。

来賓の方々にもご臨席いただき、入学生の新たな一歩を後押しするような温かい雰囲気の中での開催となりました。

井関学長が式典中に読まれた式辞の全文は、大学ホームページ（以下のQRコード）からご覧いただけます。また、入学生へ向けたお祝いメッセージとして、本学（旧

東京水産大学）出身の小野寺五典衆議院議員、楽水会の松本会長および海洋会の関根会長からご祝辞を、本学客員教授のさかなクンからメッセージ動画をいただきました。学長式辞と同じホームページへ掲載しておりますので、あわせてご覧ください。

大学ホームページのQRコード



式辞を読む井関学長



本学客員教授のさかなクン直筆のお祝いイラスト

令和7年度3月期学生表彰授与式、学業優秀学生奨学金授与式、学会等各賞表彰式を行いました(令和8年3月23日)

○学生表彰授与式（学部）

東京海洋大学学生表彰規則に基づき、入学以来よく勉学に努め、優秀な学業成績をおさめた学部学生8名に対して、日頃の努力を称え、表彰状および記念品が授与されました。



井関学長（前列中央）と受賞した学生

○学生表彰授与式（大学院）

東京海洋大学学生表彰規則に基づき、研究活動において特に顕著な研究成果をおさめた学生24名及び早期修了学生2名に対して、日頃の努力を称え、表彰状および記念品が授与されました。



井関学長（前列中央）と受賞した学生



井関学長（前列中央）と受賞した学生

○学生表彰授与式（社会活動）

東京海洋大学学生表彰規則に基づき、社会活動において優れた評価を受け、かつ、本学の名誉を著しく高めたと認められる学生6名に対して、日頃の努力を称え、表彰状および記念品が授与されました。



井関学長（前列中央）と受賞した学生

○学業優秀学生奨学金授与式

東京海洋大学学業優秀学生奨学金規則に基づき、成績優秀な博士前期課程2年次在籍者で博士後期課程に進学する8名に奨学金の目録が授与されました。



井関学長（前列中央）と受賞した学生

○学会等各賞表彰式

特に顕著な学業成績をおさめた学部学生25名、大学院学生5名に対して、以下に記載した各学会等の表彰状および副賞が授与されました。

楽水会「楽水会奨励賞」

海洋会「海洋会賞」

日本航海学会「奨学褒賞」

海技教育財団「会長賞」

日本機械学会「畠山賞」

日本船舶海洋工学会「奨学褒賞」

日本マリンエンジニアリング学会「優秀学生奨励賞(山下勇賞)」

日本マリンエンジニアリング学会「優秀大学院生奨励賞(林俊一賞)」

日本物流学会「物流研究奨励賞」

空気調和・衛生工学会「振興賞学生賞」



井関学長（前列中央右）、松本楽水会会長（前列中央左）と受賞した学生



井関学長（前列中央右）、関根海洋会会長（前列中央左）と受賞した学生



井関学長（前列中央右）、南日本航海学会常務理事（前列中央左）と受賞した学生



井関学長（前列中央右）、前田海技教育財団事業部長代理（前列中央左）と受賞した学生



井関学長（前列中央）と受賞した学生

就職情報

令和7年度卒業者の就職先

海洋生命科学部・海洋資源環境学部・海洋科学専攻科

業種	企業名
漁業	福一漁業株式会社
鉱業・採石業・砂利採取業	東亜石油株式会社
建設業	清水建設株式会社
製造業	いなば食品株式会社
	クリタ東日本株式会社
	東洋製罐グループホールディングス株式会社
	東レ株式会社
	株式会社ニチレイフーズ
	株式会社ニッスイ
	日本製紙株式会社
	長谷川香料株式会社
	古野電気株式会社
	株式会社宝幸
	マルハニチロ株式会社
	森永乳業株式会社
情報通信業	エスコ・ジャパン株式会社
	株式会社NTTデータ
	松竹株式会社
	ソフトビューベリオン株式会社
	トヨコム株式会社
	日本電気航空宇宙システム株式会社 (NEC航空宇宙システム)
	ポート株式会社
三井情報株式会社 (三井物産グループ)	
運輸業・郵便業	出光タンカー株式会社
	上野グループ
	上野トランステック株式会社
	NYKバルク・プロジェクト株式会社
	ENEOSオーシャン株式会社
	海洋技術開発株式会社
	川崎汽船株式会社
	共栄マリン株式会社
	栗林マリタイム株式会社
	CMA CGM JAPAN株式会社
	株式会社商船三井
	株式会社商船三井さんふらわあ
	第一中央汽船株式会社
	鶴見サンマリン株式会社
	トヨフジ海運株式会社
	日本海洋事業株式会社
	日本郵船株式会社
	八馬汽船株式会社
	東日本旅客鉄道株式会社
	株式会社名門大洋フェリー

業種	企業名
卸売業、小売業	伊藤忠建材株式会社
	株式会社グレートマウンテン
	株式会社交洋
	中央魚類株式会社
	東都水産株式会社
	東洋冷蔵株式会社
	中島水産株式会社
	三井物産シーフーズ株式会社
	郵船商事株式会社
	リック株式会社
金融業、保険業	全国共済水産業協同組合連合会
不動産業、物品賃貸業	東急不動産株式会社
学術研究、専門・技術サービス業	大和探査技術株式会社
	Fan Circle株式会社
宿泊業、飲食サービス業	株式会社フライングガーデン
生活関連サービス業、娯楽業	株式会社シン・コーポレーション
	株式会社東京ドーム
教育、学習支援業	東京都立大島海洋国際高等学校
	福岡市公立小学校
サービス業	株式会社エレマックス
	パーソルクロステクノロジー株式会社
	三井不動産ビルマネジメント株式会社
	株式会社リクルートR&Dスタッフニング
公務	環境省
	国土交通省
	国土交通省 航空局・自動車局・海事局
	国土交通省 中国地方整備局
	水産庁
	独立行政法人製品評価技術基盤機構
	さいたま市
東京都	
横浜市	
その他公的機関等	一般財団法人日本食品分析センター
	独立行政法人勤労者退職金共済機構
	国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構
	常呂漁業協同組合
独立行政法人都市再生機構 (UR都市機構)	

海洋工学部・乗船実習科

業種	企業名
鉱業・採石業・砂利採取業	ENEOSドリリング株式会社
	石油資源開発株式会社
建設業	五洋建設株式会社
建設業	東芝プラントシステム株式会社
	TOTO株式会社
	深田サルベージ建設株式会社
製造業	今治造船株式会社
	ジャパンマリンユナイテッド株式会社
製造業	スズキ株式会社
	ダイキン工業株式会社
	株式会社ダイフク
	ダウ・イー
	株式会社橋本チエイン
	東京エレクトロン株式会社
	トヨタ自動車株式会社
	プライムプラネットエナジー&ソリューションズ株式会社
	本田技研工業株式会社
	株式会社三井E&S
	三井E&S造船株式会社
	三菱電機株式会社
	ヤンマーホールディングス株式会社
	ライオン株式会社
	電気・ガス・熱供給・水道業
東京電力ホールディングス株式会社	
情報通信業	Acroquest Technology株式会社
	ANAシステムズ株式会社
	株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・フロンティア
	株式会社NYK Business Systems
	MUS情報システム株式会社（三菱UFJ証券ホールディングス）
	株式会社クリエーション
	鉄道情報システム株式会社（JRシステム）
	日販テクシード株式会社
	日本電子計算株式会社
	株式会社日立システムズ
	三菱電機デジタルイノベーション株式会社
	三菱UFJトラストシステム株式会社
	ワンダフルフライ株式会社
	運輸業・郵便業
飯野海運株式会社	
出光タンカー株式会社	

業種	企業名
運輸業・郵便業	株式会社ANA Cargo
	SGホールディングス株式会社
	SBS東芝ロジスティクス株式会社
	NYK Energy Ocean株式会社
	NYK LNG シップマネージメント株式会社
	ENEOSオーシャン株式会社
	株式会社オーシャンリンク
	株式会社エムティシーズ
	川崎汽船株式会社
	澁澤倉庫株式会社
	株式会社商船三井
	株式会社商船三井さんふらわあ
	鈴与株式会社
	株式会社住友倉庫
	センコー株式会社
	田淵海運株式会社
	鶴見サンマリン株式会社
	日本航空株式会社
	日本郵船株式会社
	八馬汽船株式会社
	株式会社フジトランスコーポレーション
三井倉庫ホールディングス株式会社	
三菱鉱石輸送株式会社	
三菱商事ロジスティクス株式会社	
三菱倉庫株式会社	
明海グループ株式会社	
卸売業・小売業	伊藤忠エネクス株式会社
	株式会社IDOM
金融業、保険業	株式会社ノジマ（東証一部上場）
	オリックス銀行株式会社
学術研究、専門・技術サービス業	住信SBIネット銀行株式会社
	アクセンチュア株式会社
宿泊業、飲食サービス業	有限会社船宿あみ達
教育、学習支援業	株式会社個学舎
サービス業	一般財団法人日本海事協会
	パーソルクロステクノロジー株式会社
	美須賀海運株式会社
公務	群馬県
	三重県



大学院海洋科学技術研究科

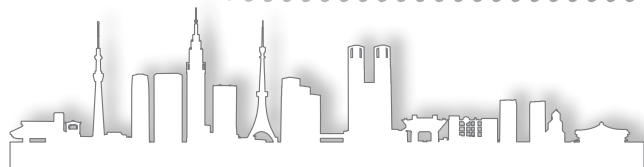
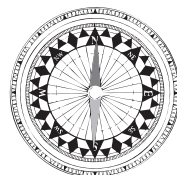
業種	企業名
農業・林業	株式会社科学飼料研究所
漁業	坂本飼料株式会社
鉱業・採石業・砂利採取業	株式会社INPEX
	ENEOS Xplora株式会社
	株式会社りゅうせき
建設業	五洋建設株式会社
	住友林業株式会社
	東洋建設株式会社
製造業	アサヒグループ食品株式会社
	味の素株式会社
	アプライドマテリアルズジャパン株式会社
	天野エンザイム株式会社
	イオンフードサプライ株式会社 (イオングループ)
	株式会社石井鐵工所
	いなば食品株式会社
	株式会社荏原製作所
	エム・シーシー食品株式会社
	オムロン株式会社
	オリエンタル酵母工業株式会社
	海洋電子工業株式会社
	花王株式会社
	株式会社カネカ
	株式会社キミカ
	カワサキモーターズ株式会社
	キッコーマン株式会社
	キュービー醸造株式会社
	株式会社極洋
	キリンホールディングス株式会社
	栗田工業株式会社
	小林製薬株式会社
	三栄源エフ・エフ・アイ株式会社
	サントリーホールディングス株式会社
	サンヨー食品株式会社
	株式会社J-オイルミルズ
	シスメックス株式会社
	シチズン時計マニュファクチャリング株式会社
	ジャパンマリンユナイテッド株式会社
	wing株式会社
	スズキ株式会社
	株式会社鈴廣蒲鉾本店
	住友金属鉱山株式会社
	ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社
	タカラ食品工業株式会社
	田辺ファーマ株式会社
	千代田化工建設株式会社
	常石造船株式会社
	株式会社椿本チエイン
	ディップソール株式会社
	東芝エネルギーシステムズ株式会社
	東北エプソン株式会社
	東洋エンジニアリング株式会社
東洋製罐グループホールディングス株式会社	
トヨタ紡織株式会社	

業種	企業名
製造業	日油株式会社
	株式会社ニチレイフーズ
	日揮ホールディングス株式会社
	日清食品ホールディングス株式会社
	株式会社日清製粉グループ本社
	株式会社ニッスイ
	日東製網株式会社
	株式会社ニッポン
	日本信号株式会社
	ニプロ株式会社
	日本デルモンテ株式会社
	ハウス食品株式会社
	パナソニック株式会社
	株式会社日立製作所
	フィード・ワン株式会社
	株式会社富士通ゼネラル
	株式会社フソウ
	ブリマハム株式会社
	古野電気株式会社
	ホクカンホールディングス株式会社
	本田技研工業株式会社
	マイクロンメモリジャパン株式会社
	マリンフーズ株式会社 (双日グループ)
	マルハニチロ株式会社
	三菱重工業株式会社
	三菱重工マリタイムシステムズ株式会社
	三菱電機株式会社
	みやさん食品株式会社
	森永製菓株式会社
	山崎製パン株式会社
	ヤマハサウンドシステム株式会社
	株式会社やまびこ
	株式会社ランドウェル
	理研ビタミン株式会社
	ロッテグループ
	電気・ガス・熱供給・水道業
ENEOSリニューアブル・エナジー株式会社	
J-POWER (電源開発株式会社)	
株式会社JERA	
東京ガスエンジニアリングソリューションズ株式会社	
情報通信業	アスクル株式会社
	株式会社アルモニコス
	株式会社セールスプロモーションサービス
	株式会社コアコンセプト・テクノロジー
	株式会社ザ・ワークス
	株式会社システムサポート
	株式会社小学館
	株式会社セガ
	株式会社DNPデジタルソリューションズ
	株式会社テクノスジャパン
	東京海上日動システムズ株式会社
	日本電気株式会社 (NEC)
	日本アイ・ビー・エム株式会社

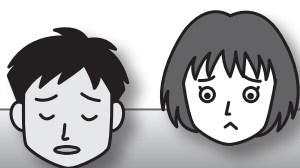
業 種	企 業 名
情報通信業	株式会社NEXGOシステムソリューションズ
	株式会社日立アドバンスシステムズ
	BIPROGY株式会社
	フォルシア株式会社
	富士通株式会社
	富士通グループ（合同採用）
	RITAグループホールディングス株式会社
	ロジスティードソリューションズ株式会社
	NSユナイテッド海運株式会社
運輸業・郵便業	京王電鉄株式会社
	株式会社商船三井
	菅原汽船株式会社
	DHL Global Forwarding
	株式会社ニチレイロジグループ本社
	三菱倉庫株式会社
卸売業・小売業	株式会社ISSリアライズ
	エプソン販売株式会社
	興和株式会社
	コーナン商事株式会社
	国分首都圏株式会社
	株式会社ゼンショーホールディングス
	双日株式会社
	東都水産株式会社
	東洋冷蔵株式会社
	中島水産株式会社
	西川計測株式会社
	ニチモウ株式会社
	松田産業株式会社
	丸紅シーフーズ株式会社
	三井物産株式会社
	株式会社モスフードサービス
	株式会社ユニバース
株式会社良品計画	
金融業・保険業	オリックス株式会社
	三井住友カード株式会社
	株式会社三菱UFJ銀行
不動産業、物品賃貸業	三菱地所レジデンス株式会社
学術研究、専門・技術サービス業	Industrial Technology Development Institute 産業技術開発研究所
	University of the Philippines National Center for Transportation Studies
	有限責任あずさ監査法人
	いであ株式会社
	株式会社エコー
	シンプレクス・ホールディングス株式会社
	株式会社セレス
	株式会社東京設計事務所
	東電設計株式会社
	日本工営株式会社
	ニュートン・コンサルティング株式会社
	八千代エンジニアリング株式会社
宿泊業、飲食サービス業	株式会社グランピスタ ホテル&リゾート
	ザ・テラスホテルズ株式会社
	株式会社BMLフード・サイエンス

業 種	企 業 名
教育・学習支援業	韓国仁川海事高校
	独立行政法人国立高等専門学校機構 弓削商船高等専門学校
	国立大学法人 岡山大学 鹿田キャンパス
	国立大学法人愛媛大学
	国立大学法人鹿児島大学
	国立大学法人広島大学
	Silliman University シリマン大学
	国立大学法人東京海洋大学
	独立行政法人国立高等専門学校機構 鳥羽商船高等専門学校
	独立行政法人国立高等専門学校機構 富山高専専門学校
University of Belize ベリーズ大学	
複合サービス事業	全国農業協同組合連合会
	Department of Fisheries, Ministry of Agriculture and Cooperatives タイ農業協同組合水産局
サービス業	株式会社環境総合研究所
	株式会社コベルコ科研
	株式会社ちとせ研究所
	一般財団法人日本海事協会
	一般財団法人日本規格協会
	一般財団法人日本気象協会
公務	パーソルクロステクノロジー株式会社
	公益社団法人北海道栽培漁業振興公社
	インドネシア水産庁
	経済産業省
	厚生労働省
	厚生労働省 東京労働局
	国土交通省 航空局・自動車局・海事局
	水産庁
	独立行政法人農林水産消費安全技術センター
	防衛省
	茨城県
	岡山県庁
	京都府
	さいたま市
	東京都
	東久留米市役所
	北杜市
横浜市	
その他公的機関等	一般財団法人日本食品検査
	一般財団法人日本食品分析センター
	独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構
	国立研究開発法人科学技術振興機構
	国立研究開発法人国立環境研究所
	国立研究開発法人水産研究・教育機構
	独立行政法人国立高等専門学校機構
	サロマ湖養殖漁業協同組合
	全国漁業協同組合連合会
	独立行政法人日本学術振興会
	地方独立行政法人北海道立総合研究機構
	宮城県漁業協同組合

学生相談室からの



お知らせ



学生相談室について

学生相談（カウンセリング）

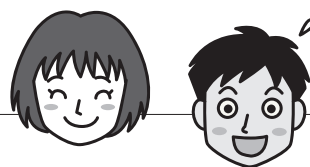
学生生活、進路、対人関係で悩みがある場合は、専門カウンセラーが相談に応じます。

話をしてみることで、あるいは自分の思いを表現してみることで、思いのほか気持ちが楽になったり、次

への展開へのきっかけが見つかったりもするものです。相談内容についての秘密は厳守されています。

なお、曜日が変更となる場合がありますので、HPをご確認ください。

品川キャンパス



場 所	大学会館 1 階学生相談室
日 時	詳細については、保健管理センターホームページをご覧ください。
相 談 員	藤田先生（女性：臨床心理カウンセラー・月曜日担当） 高橋先生（女性：臨床心理カウンセラー・木曜日担当）
予約方法	メールでご予約ください。 メール s-counseling@o.kaiyodai.ac.jp

越中島キャンパス

場 所	越中島会館 1 階 学生相談室
日 時	水・金曜日 12:10～16:40 詳細については、保健管理センターホームページをご覧ください。
相 談 員	善積先生（女性：臨床心理カウンセラー・水曜日担当） 河崎先生（女性：臨床心理カウンセラー・金曜日担当）
予約方法	保健管理センターでご予約ください。 1. 保健管理センター窓口にて 2. 電 話 03-5245-7357（保健管理センター事務室） 3. メール e-hoken@o.kaiyodai.ac.jp

令和8年度 学生支援教員

1年生

学部	学科	教員氏名		
海洋生命科学部	海洋生物資源学科	寺原 猛	董 書 闖	
	食品生産科学科	松本隆志	小山寛喜	
	海洋政策文化学科	千足耕一	原田幸子	
海洋工学部	海事システム工学科	村井康二	内野明子	木村公彦
	海洋電子機械工学科	波津久達也	柴田恭幸	佐々木秀次
	流通情報工学科	生天目知美	茂木康平	
海洋資源環境学部	海洋環境科学科	牧田寛子	宮本洋臣	
	海洋資源エネルギー学科	野村 瞬	浅井咲樹	

2年生

学部	学科	教員氏名		
海洋生命科学部	海洋生物資源学科	壁谷尚樹	川戸 智	
	食品生産科学科	後藤直宏	中村綾花	
	海洋政策文化学科	藤本浩一	若松美保子	
海洋工学部	海事システム工学科	森 明智	西崎ちひろ	笹原裕太郎
	海洋電子機械工学科	大貫 等	市川 桂	井原智則
	流通情報工学科	渡部大輔	田上悠太	
海洋資源環境学部	海洋環境科学科	宮崎奈穂	田中祐希	
	海洋資源エネルギー学科	戸田勝善	尾張聡子	

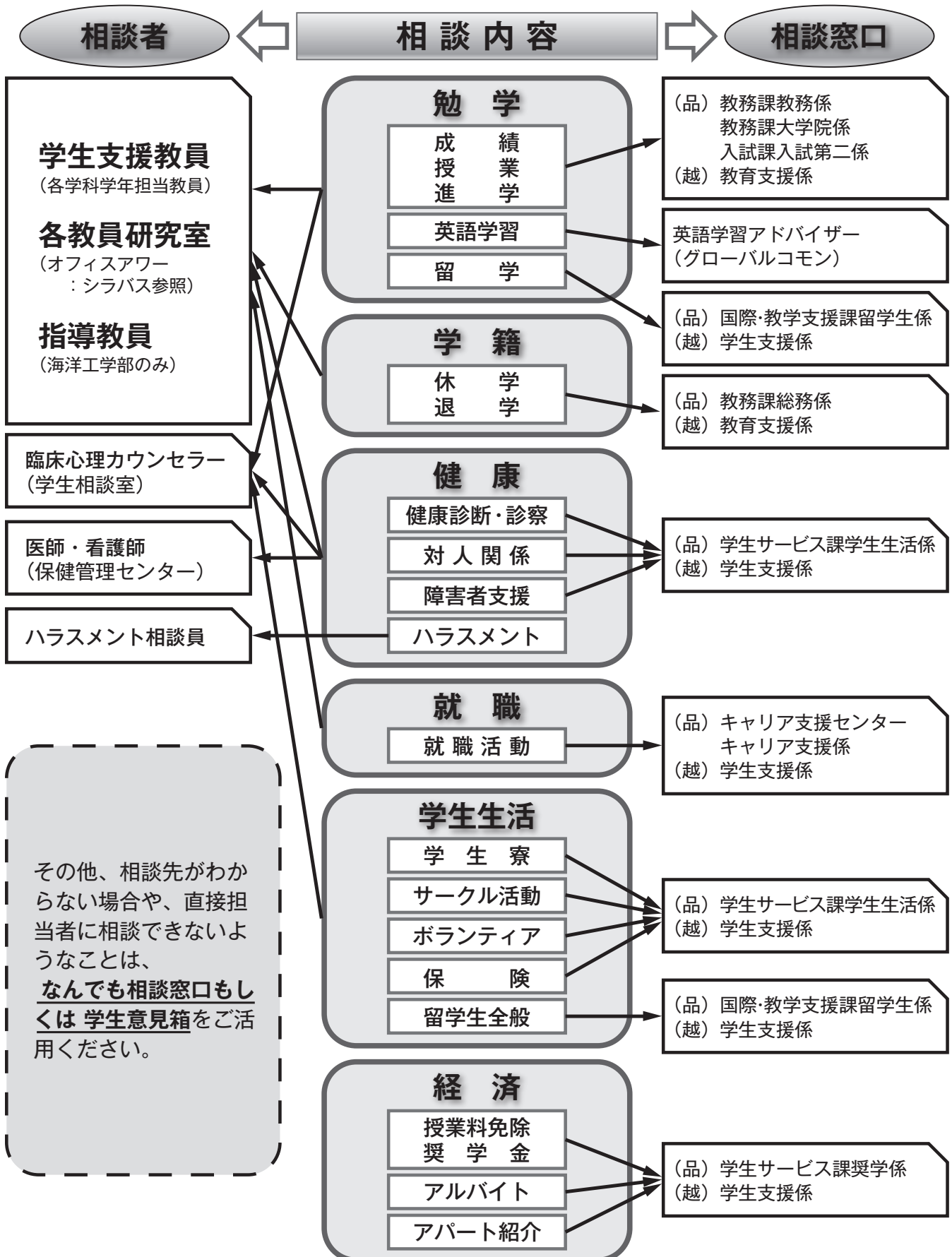
3年生

学部	学科	教員氏名		
海洋生命科学部	海洋生物資源学科	遠藤雅人	團 重 樹	
	食品生産科学科	萩原知明	ドマークアン ソニーポリヴァ	
	海洋政策文化学科	高橋 周	畠山 大	
海洋工学部	海事システム工学科	近藤逸人	田丸人意	平井友里恵
	海洋電子機械工学科	田中健太郎	関口美保	小嶋満夫
	流通情報工学科	黒川久幸	奥村保規	
海洋資源環境学部	海洋環境科学科	岡井公彦	中村 玄	
	海洋資源エネルギー学科	中東和夫	吳 連 慧	

4年生

学部	学科	教員氏名		
海洋生命科学部	海洋生物資源学科	岩田繁英	宮本隆典	
	食品生産科学科	ラベベレス イヴァンアントニオ	田中誠也	
	海洋政策文化学科	大河内美香	今村圭介	
海洋工学部	海事システム工学科	小橋史明	石橋 篤	松本洋平
	海洋電子機械工学科	桑田敬司	地下大輔	大島浩太
	流通情報工学科	遠藤伸明	坂井孝典	
海洋資源環境学部	海洋環境科学科	片野俊也	呉 海 云	
	海洋資源エネルギー学科	上野公彦	淵田茂司	

本学の学生相談体制について



お知らせ

海外派遣プログラムに参加してみませんか？

東京海洋大学では、海洋を巡る国境を越えた地球規模の諸課題の解決に貢献できる、グローバル人材の育成に力を入れており、英語教育や海外派遣プログラムの充実に務めています。

学部1年生から大学院まで、2週間程度のサマープログラムから3か月から1年間の交換留学、また1年以上の長期派遣プログラム（大学院レベルの学位取得プログラム）など、目的や国・地域、期間等に応じた各種海外派遣プログラムを実施しています。

交換留学を考えている方から、留学は考えていないけれど海外に興味はある、まとまった時間が取れる機会に何かに挑戦してみたいといった方まで、みなさんの興味や関心に応じて参加が可能です。

各プログラムの概要は以下のとおりです。

○海外探検隊

毎年夏と春の約1か月間、東南アジア地域を中心に大学、研究機関や企業での英語によるインターンシップを実施するプログラムです。

○交換留学

毎年度、3か月から1年までの期間で世界各国の協定校との交換留学を実施しています。留学先の大学に在籍して現地の学生や各国の留学生と共に学ぶプログラムです。

○オケアヌスプラスSTP・IJP・DDP

本学では中韓及びASEANの6大学と国際協働プログラムを行っており、合同サマープログラム（STP）、単位取得プログラム（IJP）及び学位取得プログラム（DDP）を実施しています。

○OMETISプログラム

本プログラムでは、学部4年生から大学院生を対象に、デンマーク及びノルウェーの6大学と高度専門技術者養成プログラムを行っており、オンラインによる合同授業（ALC）、単位互換による留学（CTEX）、インターンシップ等を実施しています。

他にも海外探検隊（指導教員立案型）、JICA・大学連携「海外協力隊」や学部等で実施する独自の海外派遣プログラムがあります。

各プログラムの説明、対象学年、各種奨学金、応募スケジュールやプログラムに参加した先輩の体験談など、詳しい情報を大学ホームページ等に掲載しています。以下のQRコードからアクセスしてください。

東京海洋大学では、2024年度から4学期制、105分授業を実施し、学修環境に合わせて、ギャップタームや長期の夏季休業期間を利用することで、留学やインターンシップ等のプログラムに取り組みやすい環境となりました。

語学や研究はもちろん、多様な価値観の中に身を置くことで自身の世界を広げることにもつながる海外派遣プログラムにみなさんもぜひ挑戦してみてください。

各プログラムの紹介、問い合わせ先はこちら



留学・海外派遣情報等は、以下のSNSでも発信しています。



@tumsat_global



Instagram
tumsat_global



国立科学博物館および国立美術館の利用について

本学は、「国立科学博物館 大学パートナーシップ」および「国立美術館キャンパスメンバーズ」に加入しております。

◆国立科学博物館 大学パートナーシップ利用可能施設

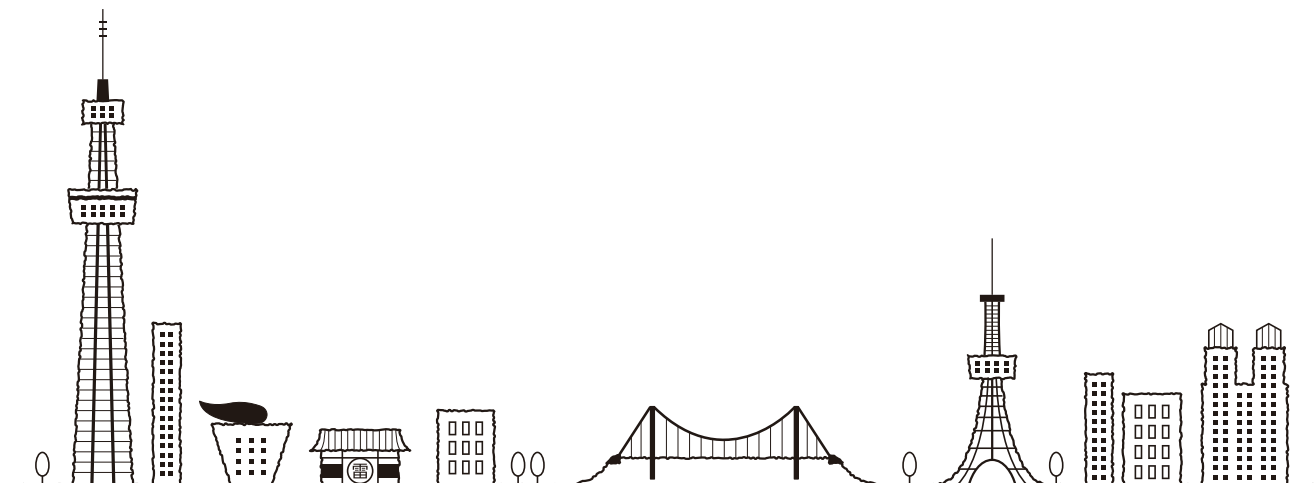
施設名	住 所
国立科学博物館(上野本館)	東京都台東区上野公園7-20
附属自然教育園	東京都港区白金台5-21-5
筑波実験植物園	茨城県つくば市天久保4-1-1

本学の学生証を提示することで、下記施設の常設展が無料で利用できるほか、特別展・企画展を割引料金で鑑賞できるなどの特典があるので、ぜひご利用ください。

◆国立美術館 キャンパスメンバーズ利用可能施設

施設名	住 所
東京国立近代美術館	東京都千代田区北の丸公園3-1
国立西洋美術館	東京都台東区上野公園7-7
国立新美術館	東京都港区六本木7-22-2
国立映画アーカイブ	東京都中央区京橋3-7-6
国立工芸館 (東京国立近代美術館工芸館)	石川県金沢市出羽町3-2

東京海洋大学 公式X (@tumsat_official)



緊急時連絡システムについて

(さくら連絡網)

1. 緊急時連絡システムとは

本学のすべての学生・教職員と緊急時に連絡をとるためのメール・LINE・アプリによる配信システムです。

- ①台風・地震等の自然災害やインフルエンザ流行等による**緊急の休講等**を連絡します。
- ②**災害時の安否確認**や健康状態の収集手段としても使用します。
- ③その他、掲示板で告知するお知らせの中で緊急性があり重要と判断するお知らせ等の連絡をします。

2. 登録方法

携帯電話・スマートフォン等の携帯端末や自宅PC等の**複数のメールアドレス(4件まで)**、**LINE**、**アプリ**が登録できます。**必ず登録してください。**

3. 登録手順

(1) さくら連絡網登録用QRコード又はURLにアクセスします。

後述の「**4.メール受信時の注意①**」で説明している**ログインIDとパスワード**が届いたら**アクセスしてください。**

QRコードはこちら →



URLはこちら → <http://390390.jp>

URLを直接入力した場合は、
認証コードの入力を求められます。
認証コード：204 441 4

(2) 連絡を受け取りたい方法を**【メール】**、**【LINE】**、**【アプリ】**から選びます。(※3種類とも登録できます。)

(3) **【メール】を選んだ場合**

①登録用メール送信画面に切り替わるので、そのまま送信します。(※メール本文は変更しないで下さい。)

②さくら連絡網から、メールで登録用のURLが届きます。

③URLにアクセスして、登録画面からログインIDとパスワードを入力します。

※登録した携帯電話等のアドレスにメールが届かない場合は、迷惑メールフィルタを確認するとともに、ドメイン指定受信に「school-i.net」を追加登録して下さい。

【LINE】を選んだ場合

①LINEの友だち追加ボタンから登録(追加)します。(トークから登録開始)

②認証コード：204 441 4を入力します。

③ログインIDとパスワードを入力します。

【アプリ】を選んだ場合

①さくら連絡網のアプリをインストールします。

②アプリを起動して、認証コード：204 441 4を入力します。

③ログインIDとパスワードを入力します。

(4) メニュー画面(以下、マイページといいます)が表示されたら登録完了です。

4.メール受信時の注意

①**ログインIDとパスワードは、大学からメールでお知らせします。(入学後1か月以内に、各自の海洋大アドレス及び入学手続き時に登録したメールアドレスへ送信します。)**

②緊急時連絡システムからアンケート形式で安否確認を行う場合があります。メールを受信したら、必ず開封し、内容を確認した後、指示に従って回答して下さい。

③マイページ(<https://390390.jp/parent/menu>)をブックマーク(スマートフォンの場合はホーム画面に追加)しておくと、後日メールアドレスの変更等を行う際に便利です。また、簡単ログイン設定をしておくと、次回からワンクリックでマイページにアクセスできます。

④配信先の変更を希望する場合やメールアドレスを変更した場合は、マイページのメニュー「連絡先を追加」から新し

い連絡先を追加し、「登録情報確認」から古い連絡先を削除して下さい。

⑤パスワードを紛失した場合は、本ご案内の一番下にある問合せ先(総務部総務課)へご連絡下さい。

⑥緊急時連絡システムは、大学からの送信専用アドレスです。上記のアンケート形式での回答以外は、大学側では内容の確認ができませんのでご注意ください。

5.個人情報の取り扱いに関して

緊急時連絡システムにご登録いただいたメールアドレス等、個人情報に関しては、「個人情報保護に関する法律」並びに「国立大学法人東京海洋大学個人情報保護規則」に基づき適切に取り扱います。また、上記の目的に限り使用し、他の目的で使用することはありません。

EMERGENCY CONTACT SYSTEM

“さくら連絡網 (SAKURA RENRAKUMOU)”

What is the Emergency Contact System?

The purpose of this system is to contact students, professors and university staff members by email in the following cases:

1. to inform them when classes are suddenly canceled due to a natural disaster (typhoon, earthquake), a flu epidemic or other reasons
2. to gather information about the safety and health of university members after a disaster
3. to disseminate urgent and important information displayed on the university's notice boards

How to register

Please register for multiple email addresses (up to Four) or LINE or other apps with mobile terminals such as a mobile phone, a smart phone, and a home PC. Please be sure to register for them.

Registration process

1. Access the QR code or URL for Sakura Renrakumou Registration.

***Please access it after receiving the notification email of your ID and Passcode from the university.**

QR code



URL

<http://390390.jp>

* If you enter the URL directory, “認証コード (authentication code)” will be required.

authentication code: 204 441 4

2. Choose how you would like to receive information from the university: “Email,” “LINE” or “app.”

* You can also register all three.

3. **If you choose “Email,”**

① The page will move to the sending registration email screen, please send the email.

*Please do not change the body of the email.

② Receive the registration email from Sakura Renrakumou.

③ Access the URL and enter your ID and Passcode on the registration screen.

*If you fail to receive the email from Sakura Renrakumou, please check your mobile phone's spam filter settings and add the domain name "school-i.net" to your list of authorized contacts.

If you choose “LINE,”

① Register (Add) from LINE's Add Friends button. (i.e., start from the “Talk” page).

② Enter Authentication code: 204 441 4.

③ Enter your ID and Passcode.

If you choose “app,”

① Install the Sakura Renrakumou app.

② Enter Authentication code: 204 441 4.

③ Enter your ID and Passcode.

4. If the menu screen is displayed, your registration will be completed successfully.

Notes

- Your ID and Passcode will be notified by email from the university. Within one month of your enrollment, they will be sent by email to both your university email address and the email address registered at the time of your enrollment procedure.
- It may be used to gather information on your safety through questionnaires. On receiving it, please ensure the message and reply your answer following its instructions.
- We recommend you will add the system login page (<https://390390.jp/parent/login>) to your bookmarks to access your email and passcode settings easily.
- To change your delivery settings, register for a new your email address.
- If you forget your passcode, please contact the responsible section (contact details below).
- This system is a send-only address. The university cannot receive emails sent to this address.

Privacy policy

Your email addresses and other personal information registered on the system are strictly protected by the Act on the Protection of Personal Information and the university's privacy policy. This system is used exclusively for the purposes stated above.

Contact

General Affairs Department, General Affairs Division

Email: so-soumu@o.kaiyodai.ac.jp Tel: 03-5463-0354

重要!

ネットワーク障害防止のための注意事項

研究室等における不適切なネットワーク機器の利用によって、キャンパス全体で大規模なネットワーク障害が起こりえます。下記の点に、ご注意ください。

ハブ等に、ループ状にケーブルを接続しない

ケーブルの両端をネットワーク機器に接続すると、出口のない通信パケットがネットワーク内で増大し、フロアや建屋全体が通信不能になるなど、重大な障害が引き起こされます。利用しないケーブルは機器から取り外してください。



古いハブ、壊れたLANケーブルなどを使用しない

古くなったプラスチック製のハブ(HUB, Switch)は、突然熱暴走を起こし、フロア全体の通信障害の原因となることがあります。壊れた配線やコネクタの損傷も通信トラブルの原因になる場合があります。導入後は耐用年数やサポート期限を確認し、破損状況に応じて買い替えましょう。(ハブは金属製の、1Gbps 以上対応のものをお使いください) また、古いOA タップの利用、定格電流を超えた使用、タコ足配線は火災の原因になりますので、ご注意ください。



研究室内のルータの設定・接続を正しく行う

研究室等で個別に設定したブロードバンドルータ、無線LAN ルータのDHCP 機能の誤設定により、フロアや建屋全体での通信障害につながる場合があります。ネットワーク設定、ケーブルの接続が正しく行われているかを点検してください。(特にWAN とLAN の間違いに注意してください)

PC 等を廃棄する際はデータの消去をしてください

廃棄するPC 等からの情報流出を防ぐため、ハードディスク・SSD 等の記録媒体は破壊装置、消去装置を使って、データ消去をしてください。消去できない場合は、窓口にお問い合わせください。

注意 PCは最新の状態にアップデートしてください

近年、OSの脆弱性を狙ったウイルス攻撃等による情報漏えい被害が世界的に報告されており、古いOSを使うことはサイバー攻撃を受けるリスクを高めます。利用している端末OSやウイルス対策ソフトを常に最新の状態に保つようにしてください。本学ではウイルス対策ソフト (Trend Micro Apex One) の提供も行っております。詳しくは、全学ICTサポートのページをご確認ください。

<https://www.ipc.kaiyodai.ac.jp/ictsupport/antivirus.html> (※学内限定ページ)

また、Windows XP, Vista, 7, 8, 8.1, 10, MacOS X及びmacOSにおける古いバージョンは、既にメーカーサポートが終了しています。これらのOSをお使いの場合は速やかにWindows11及び最新のmacOSに更新してください。

情報システムに関する全学問合せ窓口

メール ict-support@o.kaiyodai.ac.jp 内線 0446

附属図書館 (品川) 1階事務室内 (担当: 全学 ICT サポート)

Notice!

Precautions to prevent network failures

Inappropriate use of network equipment in laboratories can cause large-scale network failures across the campus. Please take note of the following.

Do not connect the cable in a loop.

If both ends of the cable are connected to network devices, communication packets with no outlet will increase within the network, causing serious problems such as communication failure on an entire floor or building. Please remove unused cables from the devices.



Do not use old hubs or broken LAN cables.

Old plastic hub (HUB, Switch) may cause communication failures on the entire floor due to thermal runaway. Damage to the wiring or connectors can also cause communication problems. After installation, check the service life and support period, and replace them according to the damage. (We recommend a metal hub that support 1Gbps or more.)

Also, please be aware that using old OA power strips, using devices that exceed the rated current, and using multiple power strips can cause fires.



Set up and connect the router in the office correctly.

Incorrect settings of the DHCP function of the broadband router or wireless LAN router set up in the laboratory may cause communication problems throughout the floor or building. Please check that the network settings and cable connections are correct. (Pay particular attention to the correct use of WAN and LAN.)

When disposing of a computer, be sure to erase all data.

To prevent information leakage from discarded PCs, etc., please use a destruction or erasure device to delete data from recording media such as hard disks and SSDs. If you are unable to delete the data, please contact the ICT Support.

Caution! Please update your PC to the latest version.

In recent years, there have been reports of information leaks caused by virus targeting OS vulnerabilities worldwide, and using an old OS increases the risk of cyberattacks. Please keep your device OS and antivirus software up to date. Our university also provides antivirus software (Trend Micro Apex One). For details, please see the ICT Support page.

<https://www.ipc.kaiyodai.ac.jp/ictsupport/antivirus.html> (*Campus-only page)

In addition, manufacturer support for Windows XP, Vista, 7, 8, 8.1, 10, MacOS X and older versions of macOS has already ended. If you are using these OSes, please update to Windows11 or the latest macOS as soon as possible.

Information System Inquiry Center (TUMSAT ICT Support)

Email ict-support@o.kaiyodai.ac.jp Extension 0446

TUMSAT Library (Shinagawa) Office, first floor

東京海洋大学校友会のご案内

Q1.「東京海洋大学校友会」とは何ですか？

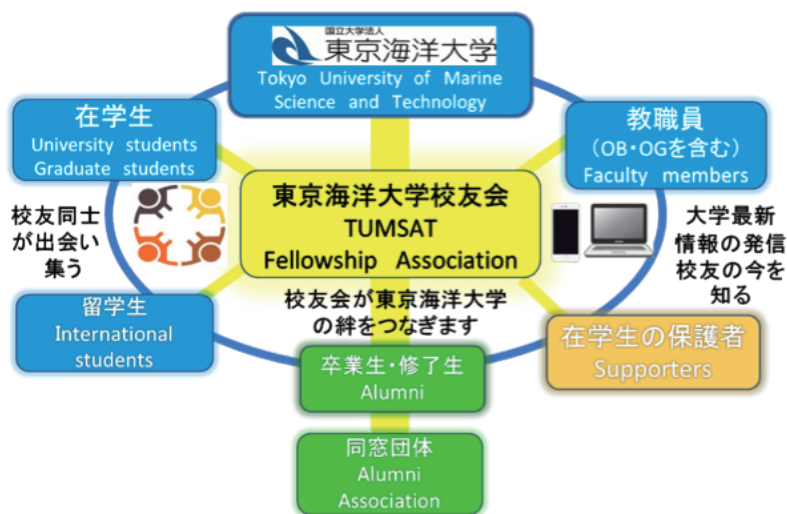
東京海洋大学は、2017年4月に「海洋資源環境学部」を設立し、国内唯一の海洋系大学としての基盤を一層強化しました。これを契機として、「校友」同士の連携を深め、社会全体における本学の存在感の向上と発展に寄与することを目的に、2018年4月に「東京海洋大学校友会」を発足しました。

Q2.「校友」とは誰ですか？

東京海洋大学および東京水産大学、東京商船大学等前身校の卒業生、在學生、在學生・卒業生の保護者、教職員の皆さまです。校友会では、「校友」限定イベント等の企画、「校友会ホームページ」の運営、「校友会メールマガジン」の配信等を行っています。

Q3.「校友会ホームページ」とは何ですか？アカウントはいつ貰えますか？

SNS機能、校友会メルマガ、公認課外活動団体ポータルサイトなどの機能を備えた「校友」限定ホームページです。「校友」の皆さまには個別アカウントを配布しております。(登録及び会費は無料です。)



海洋大の「今」が分かるコンテンツや情報を発信していきます。実際にアクセスしてみてください。



(校友会ホームページ) QRコード

【アカウント取得方法】

- 新入生の皆様:ご入学後、大学から付与されるメールアドレス (~@edu.kaiyodai.ac.jp) 宛に校友会ホームページのID・パスワードを配布しています。一度、アクセスしてみてください。
- 保護者の方・卒業生の方: 校友会ホームページの「新規登録」ボタンから申請をお願いいたします。校友会事務局で内容を確認後、ID・パスワードを送付いたしますので、分かる箇所は可能な限りご入力をお願いいたします。(在籍確認の関係上、申請いただいた後、少々お時間をいただいております。)

また、本学卒業生を支援する同窓組織として「楽水会」「海洋会」があります。本学卒業生との強固なネットワークを築いておりますので、ぜひご加入ください。
 楽水会: <http://rakusui.or.jp/>
 海洋会: <http://www.kaiyo-kai.com/>

校友会に関する問合せ先:
 東京海洋大学校友会事務局
 電話番号: 03-5463-4014
 メールアドレス: koyukai@o.kaiyodai.ac.jp

掲 示 版

SNS、ブログ等の利用に関する注意事項

FacebookやXに代表されるSNS（ソーシャルネットワークサービス）、あるいはブログなどを利用していると思いますが、インターネット上に書き込んだ内容は全世界に公開されることとなります。

転載・拡散された場合等には、長期間ネット上に残り、何らかのきっかけで問題となることがあります。SNSなどインターネットへの書き込み、写真や映像の掲載・投稿には十分注意し、個人情報は書き込まないようにしてください。

何か困ったことがあれば、周りの人に相談するようにして下さい。SNSの公式サイトヘルプや問合せ窓口なども参考にしてください。

闇バイトに注意

SNSに投稿されたアルバイト情報の中には、犯罪の手伝いをさせられるなど、危険なものも潜んでいます。怪しげな情報にだまされないよう注意してください。「#裏バイト」「#高額バイト」等のハッシュタグがいっぱい並ぶ投稿は、誰がどう見ても怪しく、雇用主や仕事内容の記載がなければ無視し、関心を持つのは危険です。好条件をエサに接触を待つ、勧誘目的で友達申請をする等、悪意の仕掛けはさまざまです。友人・知人が発信した情報でも、また聞きや再投稿の可能性があります。安易な連絡は絶対にやめてください。詐欺の受け子等は使い捨て、見つかって逮捕されることや、犯人グループとトラブルになるケースもあります。手っ取り早く稼ぎたい、スリルを味わいたいという気持ちで罪を犯すことのないよう十分注意してください。

薬物の乱用について

薬物の乱用は、本人の精神と身体に危害を及ぼします。また、友人や家族関係の崩壊にもつながるなど、本人だけでなく、社会全体に計り知れない影響をもたらします。このため、薬物の所持や使用は法律で禁止されており、違反者は厳罰に処せられます。

薬物に対して安易な気持ちや一時の興味で接することのないよう十分注意してください。

盗難に注意

下記の事項を守り、自己管理を徹底してください。

- ・貴重品は、できる限り大学には持参しないでください。
- ・やむを得ず所持する場合は、各自でロッカーに鍵をかけて管理してください。
- ・鍵は安易に解錠出来ないもの（ダイヤル式など）を選んでください。

悪質商法等に注意

消費者契約等に関するトラブルが増加しています。うまい話には要注意です。少しでも疑問を感じたら契約しないでください。また、身に覚えのない請求などは支払わないでください。

訪問販売や電話勧誘販売など、特定の取引の場合に、一定期間内ならば理由を問わず解約できるクーリング・オフ制度があります。もしも被害に遭ってしまったときは消費生活センターに相談してください。

カルト団体等の偽装勧誘に注意

キャンパス内において、自らが宗教団体であることを名乗ることなく、サークル活動や自主ゼミと称し、特定の反社会的なカルト団体に引き込まうとする「偽装勧誘」の事例があります。

声を掛けられておかしいと感じた場合はキッパリと断り、安易に電話番号、メールアドレス等を交換しないでください。また、不審な団体と感じたとき、あるいは勧誘活動を受けた場合は、学生生活係、学生支援係まで知らせてください。

飲酒についての注意事項

(1) 20歳未満の飲酒は法律で禁止されています。

アルコールには麻酔作用があるので、20歳未満が飲み方や適量もわからず無理に飲むと、急性アルコール中毒を起こしやすいといわれています。もし、誰かに勧められても、きちんと断ることが大切です。

(2) 飲酒の強要は絶対にしないこと。

20歳未満やお酒に弱い方にお酒を強要することは絶対にしないでください。

(3) 飲酒運転は厳禁です。

「道路交通安全法」では飲酒運転のほか、飲酒者への車両の提供、運転者への酒類の提供、飲酒運転の車への同乗についても禁止されており、厳しい罰則が課せられます。

